

市浦村埋蔵文化財調査報告書 第12集

# 岩井・大沼遺跡

～県営大沼地区水環境整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告～



(大沼全景：左奥には日本海と椎現崎を望む。)

青森県市浦村教育委員会



航空写真



調査風景



IA地区 完掘状況



復元土器の集合写真



土版



黒曜石(石鎌・石錐)



黒曜石



玉材



赤鉄鉱(ベンガラ)

## 序 文

市浦村では現在、「安藤文化のふるさと」をキャッチフレーズに歴史風土・文化を活かした観光の村づくりを目指しています。また、文化財行政の重要な施策として平成3年度から始まった中世港湾都市・十三湊遺跡の発掘調査は現在も継続中であり、調査・研究による歴史の解明だけでなく、史跡指定を目指した取り組みも行っています。

さて、本報告は市浦村教育委員会が平成11・12年度に実施した岩井・大沼遺跡の発掘調査報告書であります。調査によって、岩井・大沼遺跡が縄文晩期末葉を中心とした遺跡であることが分かりました。さらに大沼に面した緩斜面に縄文人たちがゴミを捨てたことが分かり、縄文人の生活の一端を伺い知ることができました。

本書が埋蔵文化財の保護と活用に役立つだけでなく、地域の歴史の教材として利用していただければ、幸いと存じます。

また、調査に際しまして、御指導・御助言を頂きました諸先生には心から感謝申し上げる次第です。

平成13年3月

市浦村教育委員会

教育長 木 村 義 光

## 例 言

- 1 本書は青森県北津軽郡市浦村大字相内字岩井81-1内に所在する岩井・大沼遺跡の平成11年度試掘調査及び平成12年度本調査の報告書である。
- 2 本書の執筆・編集は柳原滋高（市浦村教育委員会学芸員）が行い、遺物の復原・実測図の整理・製図、写真撮影は長利豪美（調査補助員）を中心に佐藤美矢子・丁子谷瑞穂・一戸勝子・伊藤美枝子・葛西節子・成田ヨシエ（地元作業員）で行った。
- 3 石器の石材鑑定（肉眼観察）は山口義伸氏（県環境生活部県史編さん室総括主幹）にお願いして、御教示頂いた。
- 4 本書を作成するに当り、以下の方々から御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げる次第です（敬称略）。  
村越 潔、藤沼邦彦、関根達人、永嶋 豊、三浦圭介、工藤 大、鈴木和子・工藤 忍、佐藤 仁、工藤清泰、佐々木浩一、山口義伸
- 5 なお、記述等に誤りがあれば、すべて編者の責任である。

## 目 次

序文	
例言	
第Ⅰ章 調査に至る経緯	4
第Ⅱ章 遺跡の環境と立地	6
第Ⅲ章 調査の経過と方法	10
第Ⅳ章 本調査の成果	14
第Ⅴ章 まとめ	44

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

市浦村では、県営大沼地区水環境整備事業の一環として、平成8年度に大沼一帯の護岸工事及び公園整備を行う計画が持ち上がる。平成9年度には事前に大沼周辺の測量調査を行い、平成10年度には土木工事を実際に着工することとなった。そこで、市浦村建設課より開発に伴う埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについての照会が市浦村教育委員会にあった。

「市浦村史」によると、遺跡名は小字名による「岩井遺跡」という名称が与えられている。しかし、小字名の岩井地区は遺跡の範囲よりもずっと広いこと。また、遺跡の範囲は大沼（湖沼）に面した場所に限定されており、一般に地元では「<sup>おおぬま</sup>大沼遺跡」と呼び親しまれているため、「岩井・大沼遺跡」とした。

埋蔵文化財包蔵地として知られる本遺跡は、近年の牧場地化を目的とした大規模な開発行為によって地形改変の影響を強く受けているため、遺跡が消滅している可能性が極めて高いことが予想されていた。

しかし、市浦村教育委員会では遺跡保護の立場として、本遺跡の年代や遺跡範囲の確認及び依存状況を明らかにする必要性があった。そこで、青森県教育庁文化課の指導のもと、工事主体者である青森県農林部・北農村整備事務所と地元市浦村建設課を交えて協議を行った結果、平成11年度に試掘調査を実施する運びとなった。そして、平成10年5月28日付けで北農村整備事務所より正式に発掘の届出が提出された。試掘調査はトレンチ調査（テストピット）を広い範囲で行うこと目的に、平成11年5月13日から実施し、平成11年6月23日までに完了した。

そして、試掘調査の結果、第Ⅰ地区とした大沼南岸の国道339号線付近一帯から縄文時代の土器片・石器剥片が多量に出土することが分かった。これを踏まえて再度協議した結果、管理用道路にかかる約900m<sup>2</sup>の本調査を実施する運びとなり、平成12年4月26日付けで北農村整備事務所と発掘調査の委託契約を結び、本調査を行うこととなった。本調査は平成12年7月3日から発掘作業を実施し、平成12年7月28日には発掘調査が終了した。

### 調査要項

#### 1. 調査目的

県営大沼地区水環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

#### 2. 調査期間

平成11年5月13日～平成11年6月23日（試掘調査）

平成12年7月3日～平成12年7月28日（本調査）

#### 3. 遺跡名及び所在地

岩井・大沼遺跡 青森県北津軽郡市浦村大字相内字岩井81-1内

#### **4. 調査面積**

試掘調査 200m<sup>2</sup>

本 調 査 900m<sup>2</sup>

#### **5. 調査委託者**

青森県農林部（青森県北農村整備事務所）

#### **6. 調査主体**

市浦村

#### **7. 調査担当者**

市浦村教育委員会 教育長 木村義光

教育次長 白川隆治（安藤の里振興室長兼務）

学芸員 柳原滋高

調査補助員 長利豪美

調査作業員 （平成11年度試掘調査）

佐藤美矢子，山田紀子，葛西節子，一戸勝子，伊藤美枝子，

柏谷祐美子，成田忠則，成田ヨシエ

（平成12年度本調査）

佐藤美矢子，山田紀子，葛西節子，一戸勝子，伊藤美枝子，

柏谷祐美子，成田忠則，成田ヨシエ，丁子谷瑞穂，今由里子，

葛西テサ子，山田サミ，工藤チエ，三和淑，秋田谷久

## 第Ⅱ章 遺跡の環境と立地

市浦村は青森県の西北部、津軽半島の日本海側に面した場所に位置している。また、ここには津軽平野を北上する岩木川の流れが日本海へと注ぐところに十三湖という潟湖（ラグーン）が形成されている。このため、十三湖一帯の地域は岩木川を通じて結ばれる河川交通の要衝としてだけではなく、日本海交易ルートの接点として縄文時代以来、人や物資のさまざまな交流が行われた地域と考えられる（第1図）。

十三湖の西側には、2列の浜堤状砂丘が南北に発達して伸びており、西側の七里長浜は日本海の荒波を直接受け、防波堤の役割を果している。一方、東側砂丘は十三湖に接している。この東側砂丘上には現在も十三集落が形成されており、古くは鎌倉時代から室町時代にかけて「十三湊」と呼ばれた大規模な港湾機能を持った港町が栄えた。また、砂丘間には前瀬・セバト沼・明神沼という砂丘間湖沼が発達しており、中世期には日本海へと続く水路の役割を果していたと考えられる。そして、現在では十三集落南端の砂丘を境に車力村と接している。

十三湖北岸には、板割山（標高178m）、四ツ瀧山（標高669m）、木無岳（標高587m）といった中山山脈が連なり、北には小泊村・三厩村・今別町、東には蟹田町・中里町と境を接している。相内川・唐川・磯松川といった主要河川はこうした中山山脈の山々から発達したものである。磯松川は直接日本海へ流れ込み、唐川は五月女滝原の砂帶を経由して、十三湖北岸に流れ着く。相内川はこれらの河川の中で最も大きく、太田川・桂川・山王川が相内集落付近で合流したもので、十三湖北岸に流入し、沖積地を形成している。

岩井・大沼遺跡は十三湖北岸にあり、四ツ瀧山から派生した標高10~20m前後の洪積段丘上に立地している（第2図）。この段丘上には大小の湖沼群が点在しており、その中でも東西800m、南北400mを有する最大規模の「大沼」と呼ばれる湖沼がある。これまで、大沼一帯には縄文時代の遺物が広範囲に散布することが知られており、大沼北岸から東岸にかけて、本遺跡が埋蔵文化財包蔵地として遺跡台帳に登録されている。現地は村営岩井牧場として起伏のある台地が牧草地として利用されている現状である。

しかし、地元の古老によれば、かつて大沼一帯は樹木が鬱蒼とした場所で、沼地に近づけない程であったと聞く。昭和43年に牧場地を目的とした大沼周辺の開発が急激に進み、起伏のある自然地形をならして大規模に造成・整地している。その際に縄文時代の遺物が多く出土したため、遺跡として周知されたという皮肉な結果となっている。現在では遺跡を周知させる遺跡案内板が設置されているものの、今回の発掘調査が実施されるまでは遺跡の実態が全く不明と言わざるを得ない状況であった。ちなみに、「市浦村史」によれば、本遺跡はかつて縄文時代中期土器、土師器が出土したとして知られているが、そうした記録類や出土遺物等も全く残されていない。しかし、市浦村教育委員会に寄託されている資料の中には、「岩井遺跡出土」と記載された縄文晚期の粗製土器のほか、写真1で示したように縄文後期の十腰内I式に相当する資料が保管されており、参考資料となろう。

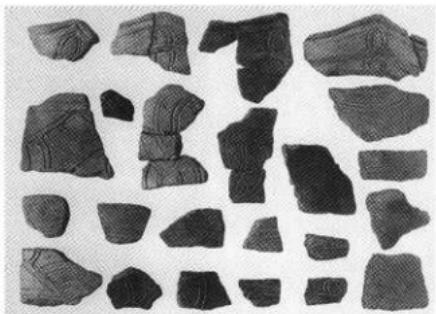
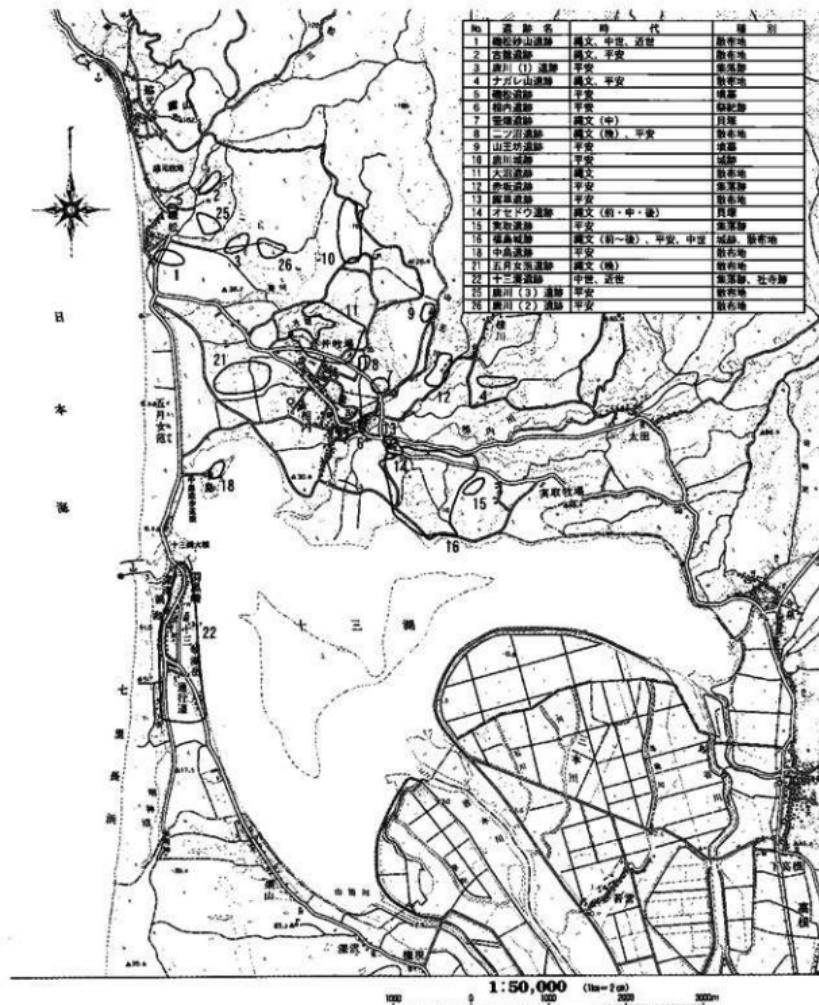


写真1

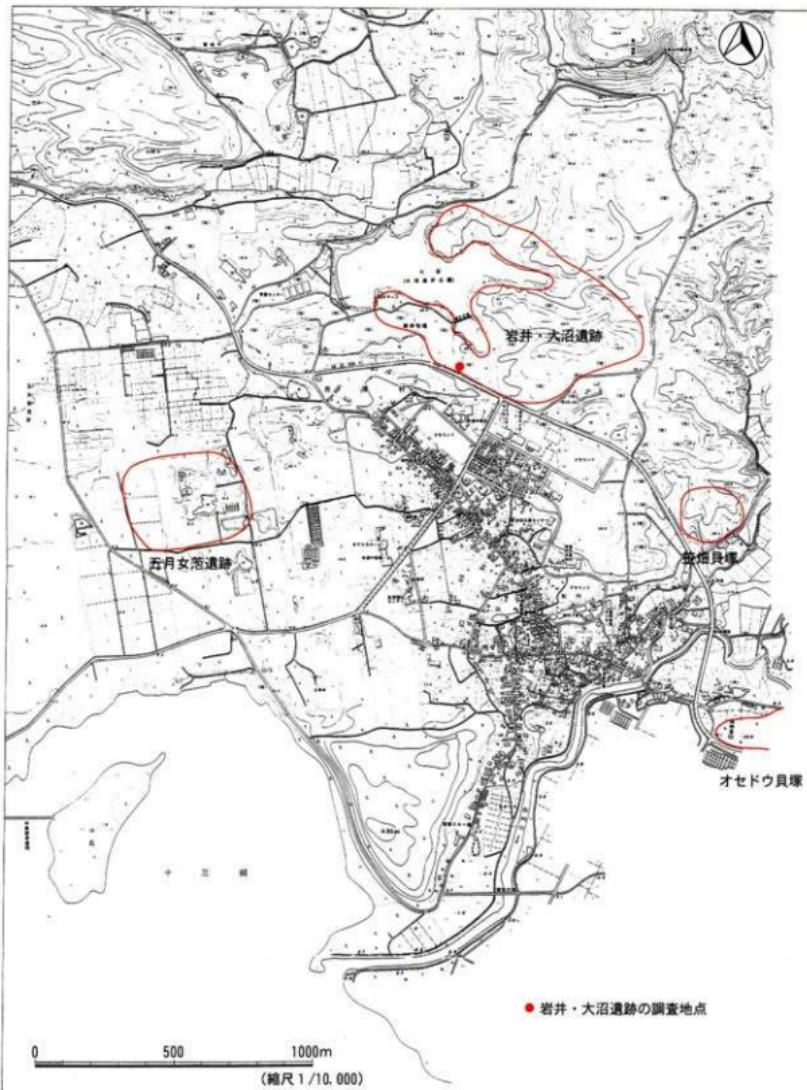
ドウ貝塚は研究史的にも古く、大正12年にはオセドウ貝塚における人骨の発見、その後、大正14年には山内清男による層位学的な発掘によって円筒土器の編年研究が行われるなど、研究史的にも非常に有名な遺跡である。近年では平成元年～二年にかけてオセドウ貝塚の発掘調査が実施され、縄文前期～後期及び古代では11世紀代、中世では15世紀代の複合遺跡であることが明らかとなっている。また、縄文前期・中期ではヤマトシジミを主体とした貝塚で、骨角器（鹿製のヘアピン）なども出土している。ただし、縄文晚期の遺物は全く出土していない。

また、本遺跡と同じ段丘の西縁には、直線距離にして約1kmのところに五月女<sup>そとめやち</sup>遺跡がある。同報告書によれば、五月女遺跡は新期砂丘砂に覆われており、その下層に当たる黒色土層から遺物包含層が確認されている。縄文時代中・後期の遺物がごく少量含まれているほかは、縄文時代晚期前葉～後葉に相当する土器群（大洞B式～大洞A式）が多量に発見されている。五月女遺跡周辺の標高は4～6mほどで、一帯は防風林のほか、一部水田として開墾整地されている。しかし、近年では土砂採取によって、地形が大きく替わりつつあり、環境の変化が著しい状況である。ところで、五月女遺跡の終末を示す土器型式は大洞A式までであり、後述する本遺跡では縄文晚期末葉の大洞A'式を主体とした時期であることから、集落の移動による両遺跡の連続性を伺うことができるだけでなく、土器変遷を知る上でも貴重なものとなるであろう。

また、周辺に所在する遺跡に目を向けてみると、縄文時代に関する遺跡では縄文前期・中期のオセドウ貝塚、笛烟貝塚が知られている。本遺跡から直線距離で南東に約1kmのところに笛烟貝塚（標高25m前後）がある。さらに、笛烟貝塚から南東に約0.8kmのところにオセドウ貝塚（標高20m前後）が続く。これらの貝塚はそれぞれ丘陵先端部に形成される特徴がある。特にオセ



第1図 市浦村の遺跡地図



第2図 岩井・大沼遺跡と周辺の縄文遺跡

## 第III章 調査の経過と方法

### (平成11年度試掘調査)

発掘調査が必要となった箇所は大きく2地点に分かれる。それぞれ第I・第II地区と呼称する(第3図)。第I地区は大沼南岸の地点であり、国道339号線から大沼に伸びる管理用道路と駐車場の設置を予定している場所であった。発掘調査は2m×2mのトレンチを25箇所設け、約100m<sup>2</sup>を実施した(第4図)。

第II地区は大沼北岸で南西方向に張り出した丘陵上に当たる。この地区には遊歩道や東屋の建設を予定している場所である。発掘調査は2m×2mのトレンチを22箇所設け、約88m<sup>2</sup>を実施した(第5図)。

調査は5月13日に第I地区から実施した。調査は任意の地点を設定し、掘り進めていった。後日、調査地点は平板測量によって、1/500の縮尺で平面図に地点を記入していく。各トレンチでは写真撮影と観察表を作成した。なお、標高は市浦村役場前にある三角点から調査区まで、水準測量により求めた。

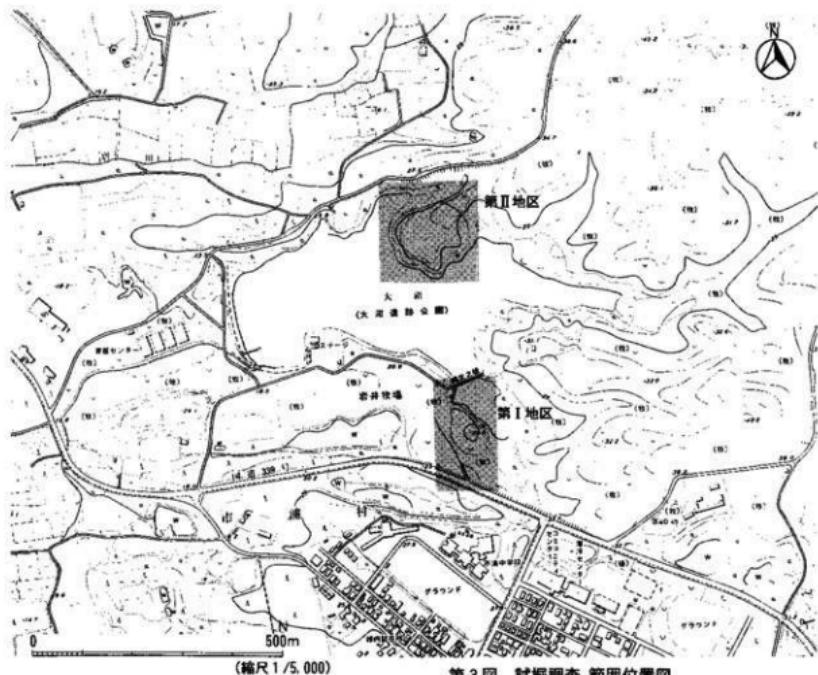
第I地区では調査を進めていくうちに、No.1～7・13トレンチで牧草に覆われている地表面を剥ぐと地山面であるローム層がすぐに露出し、かなりの土地変更によって、削り取られている状況が明らかとなった。

しかし、5月18日にはNo.16トレンチで、初めて縄文土器4点が確認された。そこで、翌日にはNo.16トレンチを4m×4mに拡張して遺構確認を実施した。その結果、No.16トレンチから倒木痕を確認し、縄文土器や石器剥片も多数出土した。さらに、5月26日にはNo.24トレンチから縄文晩期の土器や石器剥片が出土した。

一方、5月26日から大沼北岸の第II地区の調査を開始した。調査は任意に22箇所のトレンチ調査区を設定したが、全く遺構・遺物を確認することができなかった。

調査地点は第I地区と同様に平板測量によって、1/500の縮尺で平面図に地点を記入していく。各トレンチでは写真撮影と観察表を作成している。第II地区的調査は6月3日に終了した。埋め戻しは人力によって行った。

試掘調査の結果、第I地区的国道339号線に沿った地点(No.15～No.20)において、遺物を広い範囲に渡って確認することができた(第4図)。そこで、調査の後半には工事に係る範囲を2箇所、約900m<sup>2</sup>の新たな予備調査を行った。ここで、道路を挟んで西側をA地区、反対の東側をB地区と呼称することとした(第6図)。調査の結果、A地区は地形が大沼に向かって緩斜面になっており、斜面上に多くの土器片・石器剥片が出土していることから、縄文晩期の土器捨て場である可能性が考えられた。出土した遺物は可能な限り取り上げたが、来年度の本格的な発掘調査に持ち越すこととなった。



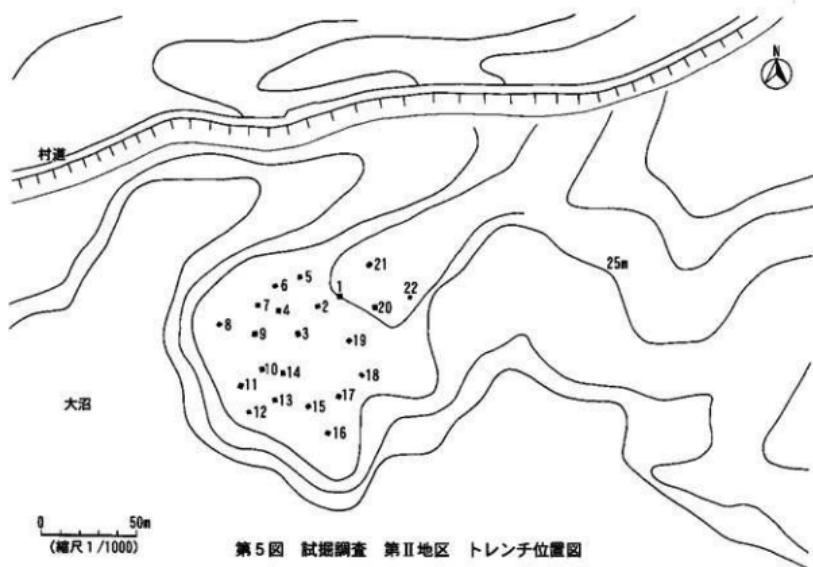
第3図 試掘調査 範囲位置図



第4図 試掘調査 第I地区 トレンチ位置図

### 調査日誌

- 5/13 調査開始。機材の搬入。第I地区  
No.1～No.7トレンチを調査。
- 5/14 第I地区No.8～No.11トレンチを調査。
- 5/17 第I地区No.12～No.15トレンチを調査。各トレンチの写真撮影と観察表の作成。
- 5/18 第I地区No.16～No.17トレンチを調査。No.16トレンチより、縄文土器が4点出土。
- 5/19 第I地区No.16トレンチを4m×4mに拡張。午後、雨で作業中止。
- 5/20 第I地区No.15・16トレンチの精査。縄文土器も多数出土。
- 5/21 第I地区No.18～No.21トレンチを調査。No.18より縄文土器や石器剥片



第5図 試掘調査 第II地区 トレンチ位置図

が多数出土。

5/24 第I地区No.18-20-21トレンチの精査。

5/25 雨天のため作業中止。

5/26 第I地区No.21トレンチの精査。第I地区No.22～No.24トレンチを調査する。No.24トレンチから縄文土器や石器剥片が検出された。

第II地区的調査開始。第II地区No.1～No.4トレンチを調査。

5/27 雨天のため作業中止。

5/28 午前中は雨。午後から作業開始。

5/31 第I地区No.14から順次、写真撮影・観察表の作成を行う。第I地区No.25トレンチの調査。

6/1 第I地区No.21-25トレンチの写真撮影。

6/2 第II地区でトラバース測量による杭打ち作業と各トレンチの平板測量。

6/3 第II地区の各トレンチを平板測量す

る。第II地区的埋め戻し作業。

6/7 第I地区(A・B地区に細別)の重機による表土掘削。

6/8 第I-A地区の粗掘り作業。縄文土器・石器剥片が大量に出土。

6/9 第I-A地区と第I-B地区の杭打ち作業。第I-B地区の粗掘り作業。

6/10 第I-B地区の粗掘り作業。縄文土器・石器剥片が大量に出土。

6/11 第I-B地区の粗掘り作業。

6/14 第I-A地区の遺物を平板(1/40)で取り上げる。第I-B地区の杭打ち作業と遺物を平板で取り上げる。

6/15～23 第I-A地区と第I-B地区的遺物を平板で取り上げる。

6/23 遺物出土状態の写真撮影と実測作業、遺物の取り上げ作業。

調査終了。

### (平成12年度本調査)

本調査は管理用道路の建設工事に係る約900m<sup>2</sup>（予備調査個所）の発掘調査を実施することになった。I-A区では特に遺物の出土が多く、中央に観察用の畦を設けて層位を観察しながら、遺物の検出を行い、適宜出土状態の写真撮影を行った。出土した遺物は平板によって、40分の1の縮尺で地点を落としながら取り上げていった。なお、風倒木痕は9箇所見られたものの、遺構は全く検出されなかった。

### 調査日誌

7月3日（月）曇り

発掘機材の搬入などを行い、発掘の準備をする。

7月4日（火）晴れ

I-A区の精査及び遺構・遺物の検出を行う。さらに、昨年度残したI-B区の粗掘り作業を行う。

7月6日（木）晴れ

I-A区では出土遺物の精査と写真撮影。I-B区では検出された風倒木痕の完掘及び写真撮影をする。I-B区の中央部で縄文土器がまとまって出土したが、遺構は見られない。

7月7日（金）晴れ

I-A区では出土遺物の取り上げ作業をする。I-B区では等高線図を作成する。I-B区の調査終了。

7月10日（月）晴れ～7月25日（火）雨

この間、I-A区が縄文時代晚期の土器捨

て場であったことが判明した。遺構はなく、風倒木痕が検出されただけであった。そのため、観察用の畦を残しながら出土遺物の検出、精査、写真撮影及び遺物の取り上げ作業を繰り返し行う。

7月26日（木）曇り時々雨

前日の大雨のため、I-A区の半分以上が水没したため、午前中は水を掻き出す作業を行う。午後からは水没した遺物の取り上げ作業や土層観察のため調査区壁の精査・写真撮影及びI-A区の等高線図を作成する。

7月27日（木）晴れ

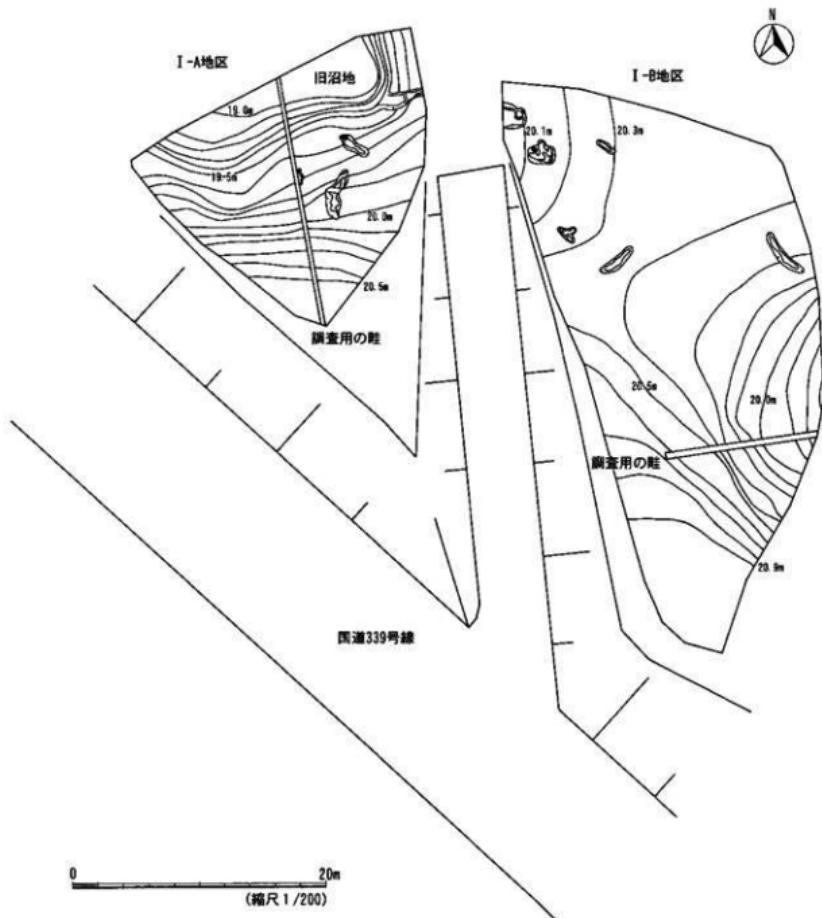
トータルステーションによる国土座標の測定。I-A区の完掘精査及び全景写真の撮影。

7月28日（金）晴れ

調査区セクション図の作成及び発掘機材の搬出を行う。発掘調査の終了。

## 第IV章 本調査の成果

ここでは平成12年度に実施した本調査の成果について報告する。本調査では前年度の試掘調査の結果を踏まえて、大沼南岸の第Ⅰ地区とした地点を実施した。さらに第Ⅰ地区は管理用道路を挟んで、西側をA地区、東側をB地区に分けて呼称した（第6図）。



第6図 本調査 第Ⅰ地区 調査位置図

## 第1節 遺跡内の地形と基本層序

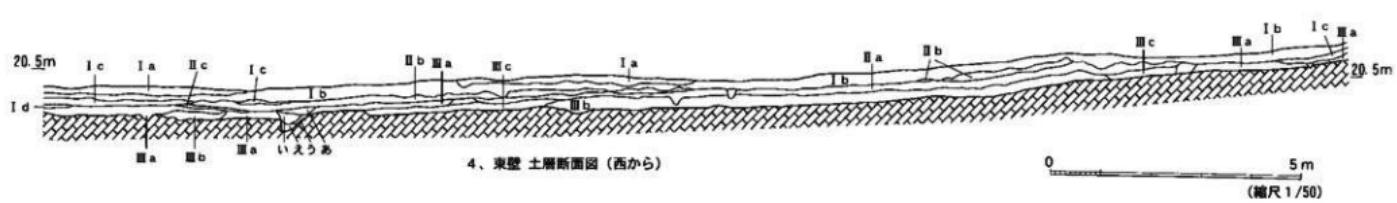
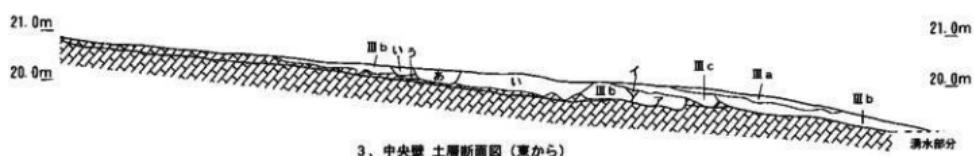
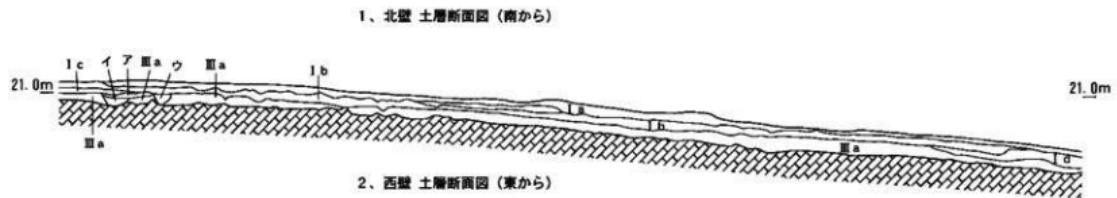
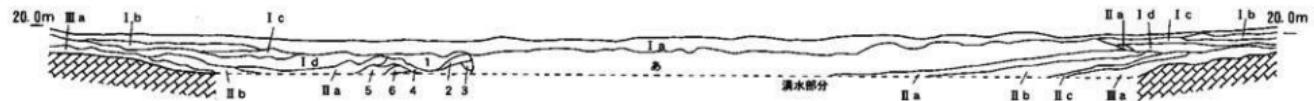
A地区は南側の標高が20.5mと最も高く、南から北に向かって緩やかに下る緩斜面（谷地形）となり、旧湖沼（標高19.0m）に行き着く。旧湖沼は湿地となっており、雨になると湧水が激しくなる。ここでは風倒木痕が3箇所確認された。

B地区もやはり南側の標高が20.9mと最も高くなる。また、北側に狭い平地が見られるが、ここから西側と東側に向かって緩やかに下る緩斜面（谷地形）となる。ここでも風倒木痕が6箇所確認された。

B地区は牧場地化による掘削の影響を大きく受けた為か、搅乱も多く、良好な状態の遺物包含層ではなかった。しかし、A地区では国道339号線直下に当たる南部のところからは、掘削の影響を受けていない良好な状態の遺物包含層が確認された。しかし、A地区の北端部の旧湖沼に当たるところでは埋め立てによる重機の掘削痕によって、破壊されていたことが明らかとなった。調査ではA地区的北壁・東壁・西壁・中央トレンチ壁のセクション図を作成し、土層観察を行った（第7図）。

A地区における各層の概略は以下のとおりである。

- 第I層 表土。**牧草による植物根を多量に含んだ湿性のある褐色シルト土であり、平均で約30cmを測る。調査に際しては重機によって掘削した。
- 第II層** にぶい黄褐色を呈した砂層。飛砂による堆積層と考えられる。遺物は全く含まない。安定した砂層ではないが、平均で約15cmを測る。
- 第III層** 暗褐色や黒褐色を呈した腐食シルト土層。縄文晩期末葉の土器片・石器剥片を多量に含む遺物包含層である。安定した土層であり、約30cm～40cmを測る。
- 第IV層** 暗褐色を呈する地山ローム層。遺物はなし。



第7図 本調査 第I-A地区 土層断面図

## 第2節 遺物の散布状況

調査に際しては、任意の点を基点にして、南北方向（縦方向）をX軸、東西方方向（横方向）をY軸に設定した。調査区の関係から、X軸は南に向かうほど数字が増え、Y軸は西に向かうほど数字が増えるように設定した（第8～10図）。単位はメートルである。そして、基点と4箇所の座標点は後日、トータルステーションによって国土座標を求め、正確な調査位置が分かるようにした。調査区の座標と国土座標の関係は、以下のとおりである。

基 点 ( $x = 0, y = 0$ ) : 国土座標 ( $x = 117727.464, y = -40356.030$ )

座標1 ( $x = 0, y = 10$ ) : 国土座標 ( $x = 117724.781, y = -40365.642$ )

座標2 ( $x = 0, y = 20$ ) : 国土座標 ( $x = 117722.101, y = -40375.296$ )

座標3 ( $x = 0, y = 30$ ) : 国土座標 ( $x = 117719.404, y = -40384.906$ )

座標4 ( $x = 0, y = 50$ ) : 国土座標 ( $x = 117714.057, y = -40404.172$ )

A・B地区において縄文時代晩期末葉の土器片と石器剥片などを大量に含んだ遺物包含層（第Ⅲ層）を確認したので、A・B地区から出土した遺物の散布図を作成することにした。ただし、B地区においては大きく攪乱の影響が認められたので、後世の遺物の移動が考えられる。そこで、ここでは詳細な分析は避け、遺物の散布状況を示すに留めておきたい。

散布図は2m四方のグリッドを単位として作成した。なお、遺物はできるだけドット（点）を記録して取り上げるように努めたが、土器の残存状況が極めて不良であることから、磨滅の著しい細片はまとめて取上げているものも多く、厳密な意味での遺物点数ではない。そのため、散布図に示した数字はあくまでも散布状況を知るための概算として理解していただきたい。

（ただし、石器・フレイク・黒曜石・赤鉄鉱は実数を示している。）

以下、個別に散布図の概要を示す。

**遺物の散布**：遺跡に持ち運ばれたものすべてを遺物としてカウントした。土器・石器・フレイク・黒曜石・赤鉄鉱などである。A地区4377点、B地区910点、合計5287点である。A地区にまとまりが見られ、 $x = -8 \sim 8, y = 28 \sim 42$ の範囲に遺物が集中する。B地区では一見して小プロックごとにまとまっているように見えるが、攪乱による影響と思われる。

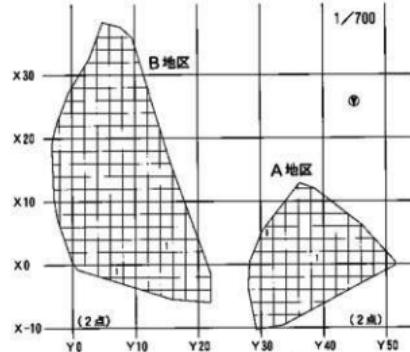
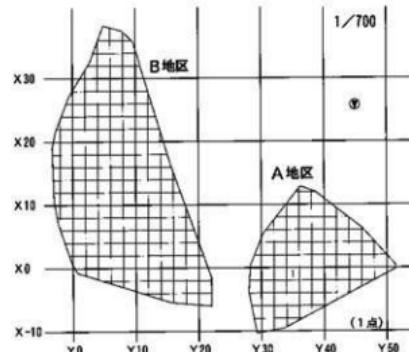
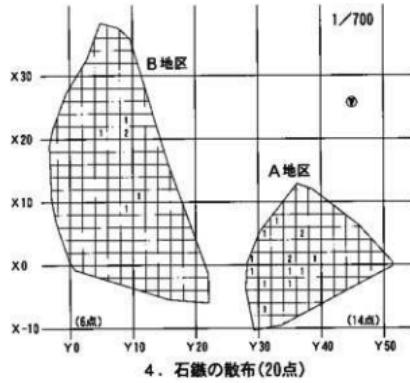
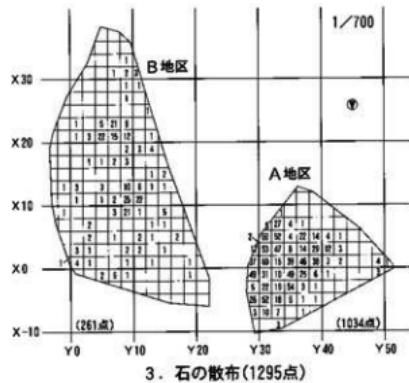
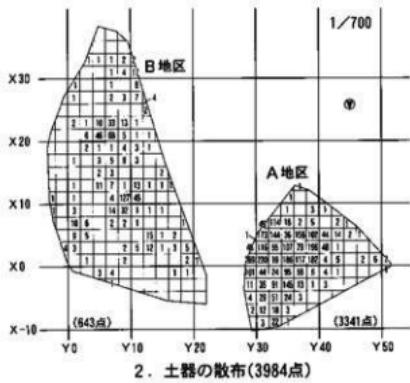
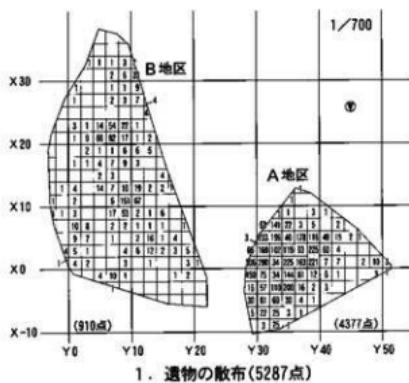
**土器の散布**：出土した土器をカウントした。A地区3341点、B地区643点、合計3984点である。ただし、前述したように土器細片はまとめて取上げているので、厳密な実数ではなく、概算である。遺物の中では土器片が最も多く、前述の遺物散布と傾向は変わりない。

**石の散布**：遺跡内に持ち込まれた石器及び石器以外の原石・黒曜石・赤鉄鉱などすべての石をカウントした。A地区1034点、B地区261点、合計1295点である。特徴的なことは黒曜石のフレイク、赤鉄鉱（ベンガラ）が多く出土していることである。また、石器では扁平で小型の川

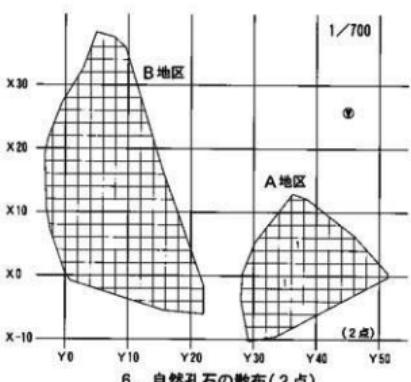
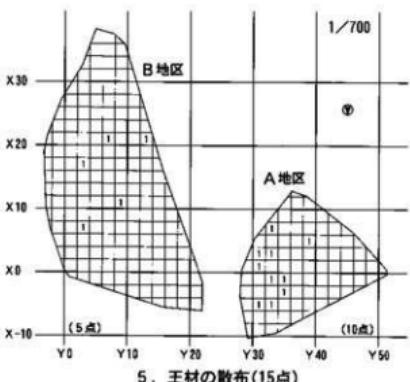
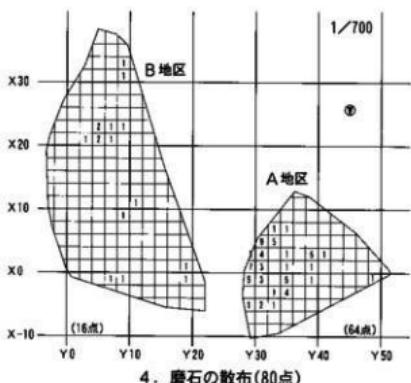
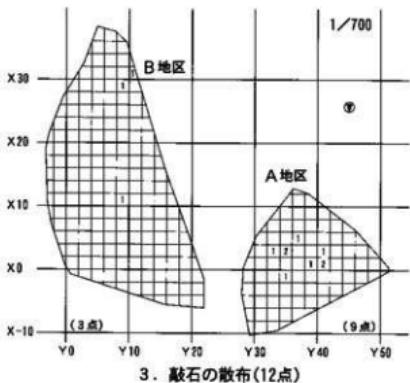
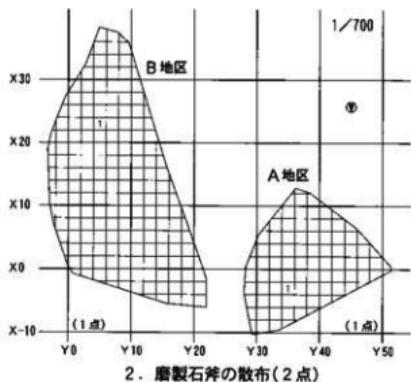
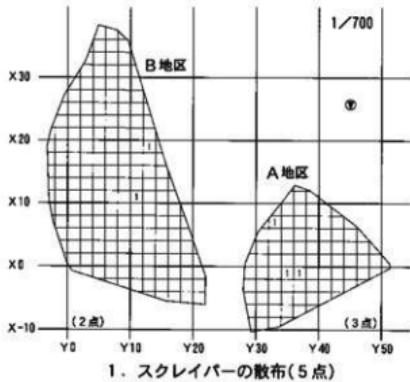
原石を使用した磨石が最も多く出土した。やはり、A地区においてまとまりが見られる。

石器の散布：石鎌・尖頭器・石匙・スクレイパー・磨製石斧・敲石・磨石の石器の散布状況を個別に示した。それぞれ石器の数も少なく、特徴的な傾向は掴めなかった。

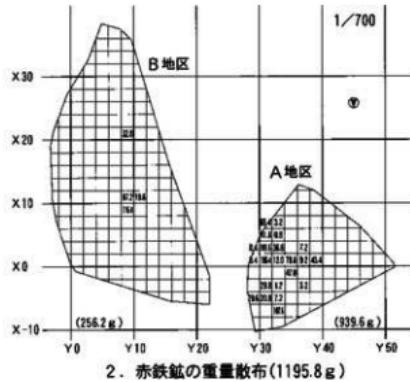
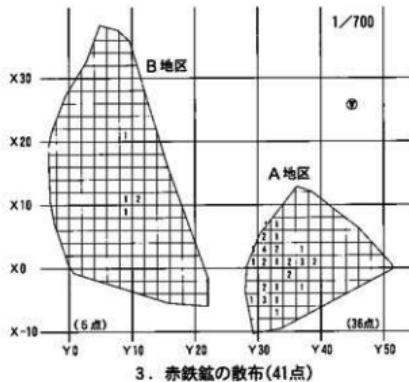
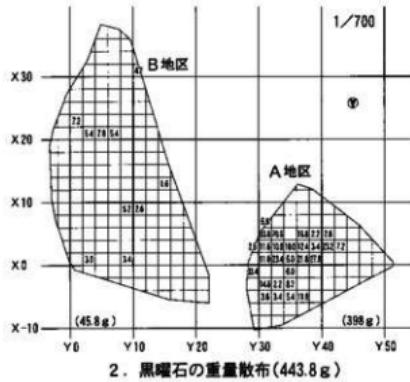
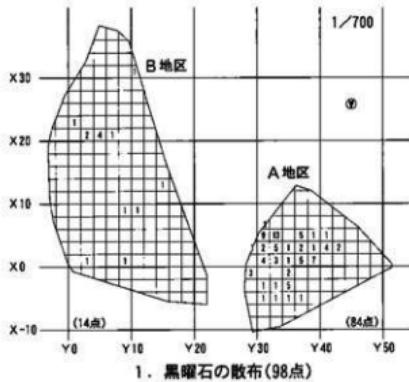
石器以外の石の散布：玉材・自然孔石・黒曜石・赤鉄鉱の散布状況を示した。なお、黒曜石・赤鉄鉱は重量も計測した。



第8図 遺物散布図(1)



第9図 遺物散布図(2)



第10図 遺物散布図(3)

### 第3節 出土遺物について

#### 〈土 器〉

今回の調査によって、土器捨て場と考えられる遺物包含層を検出することができた。特にA地区では良好な状態で検出することができた。

しかし、土器は細片や摩滅した土器が多く、良好な状態の資料が少ない。そのため、器種の判別に困難なものが多く、口縁部の形態や傾き、或いは主文様の特徴から推定して、分類している。また、台付を有する底部は器種が特定できないため、まとめて報告している。掲載した土器は全部で254点である。器種構成は深鉢形（壺形も含む）・（台付）鉢形・（台付）浅鉢形・壺形・蓋形土器である。それぞれの土器の詳細については、観察表に譲ることにして、ここでは器種別に大別して、概要を述べることとする。

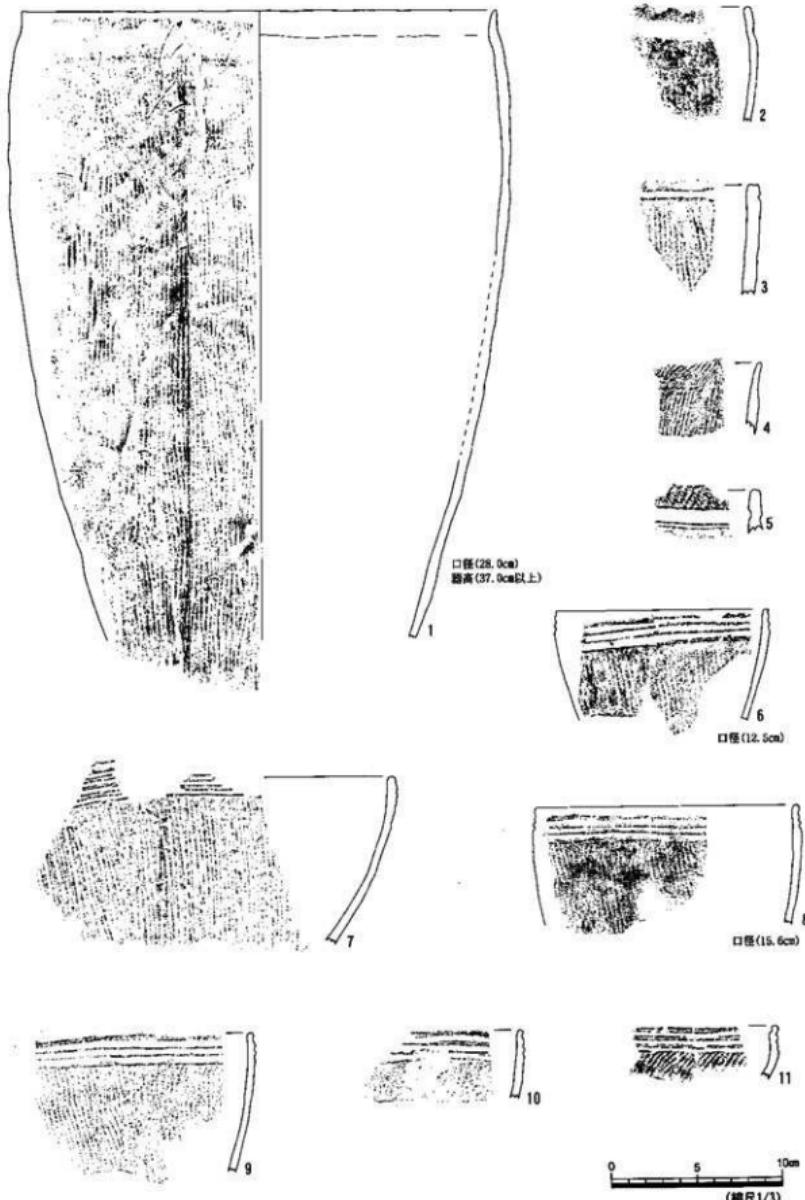
#### 深鉢形土器（1～5・204・206・239）

深鉢形としたものは7点ある。ただし、2・5は鉢形の可能性もある。また、204・206・239は頸部のくびれや体部の調整等が他の土器と異なることから、壺形とすべきかもしれない。

厚さ=7mm前後とやや厚目である。すべてに炭化物が付着しており、煮沸用として利用されている。胎土=粗粒砂を含むものが多い。内面調整=丁寧なミガキが施されているもの（1・3～5）が多い。色調=1は表面が浅黄色を呈するが、内面は炭化物の付着により、黒色を呈する。その他は炭化物の付着もあって、全体に暗褐色を呈したものが多い。口縁部の形状=平口縁（1・4）、波状口縁（2・3）、山形突起（5）を呈するものがある。口縁部装飾=無文帯を施すもの（1・4）、と平行沈線文（2・3・5）を施すものがある。地文=条痕文（1・2・3）と繩文（4・5）がある。条痕文はすべて縦方向に施されている。4は口縁部に無文帯を施し、無文帯上部には横位回転してLR繩文を斜行させるが、無文帯以下の体部には斜位回転してLR繩文を縦走させている。5も同様、口縁部には横位回転したLR斜行繩文が見られる。

法量=1は口径28.0cm、器高37.0cm以上である。その他は良好な資料もなく、大きさを把握することができない。

その他（壺形）=204は口縁部（頸部）に横方向の丁寧なミガキ、体部には縦方向の丁寧なミガキを施す。内面はやや粗いケズリ調整が見られる。206は頸部がそれほど屈曲していない。破損が激しいが、横方向の丁寧なミガキが見られる。内面は粗いケズリ調整が見られる。239は小型品である。小破片であるため、壺形に近い可能性もある。内外面には丁寧なミガキ調整が施されおり、黒色で光沢がある。



第11図 深鉢・鉢形土器(1)

## 鉢形土器（6～84、171～180・182・184～188・194・201）

ここでは口縁部破片（6～84）の79点、底部破片（171～180・182・184～188・194・201）の18点を掲載した。なお、前述したように、口縁部を観察しただけでは台付を有するか否かは判別できないため、台付を有する底部はまとめて後述することとした。このことから、口縁部破片の鉢形土器としたものは、実際には台付を有するものも当然含まれている。（なお、後述する浅鉢形土器も同様である。）

鉢形土器は比較的装飾性も低く、器面には多少の差はあるが、すべてに炭化物が付着しており、煮沸用として利用されたと考えられる。文様帶に変形工字文を有するものは見当たらなかつた。厚さ＝3～6mm前後と深鉢形よりもやや薄めである。胎土＝細粒砂を含むものが多い。内面調整＝丁寧なミガキが施されるもの、やや粗いミガキが施されるもの、ケズリ調整が残るものなどが見られる（詳細は観察表を参照）。色調＝赤褐色や炭化物の付着によって、暗褐色を呈したものが多い。法量＝器形全体の法量が知れるものは口径12.8cm、器高11.0cm、底径5.3cm(38)の1点だけであり、その他に良好な資料はない。口径が復原可能なものは、小さなものから順に11.6cm(44)、12.5cm(6)、15.6cm(8)、18.0cm(18)、26.0cm(16)、28.0cm(12)となる。また、底径の計測・復原可能なものは、小さなものから順に2.5cm(174)、4.0cm(178)、4.0cm(197)、5.0cm(173)、5.2cm(179)、5.6cm(186)、6.0cm(185)、6.5cm(194)、7.0cm(172)、7.8cm(182)、8.5cm(171)、8.6cm(177)、9.0cm(176)となる。このことから、鉢形土器の法量にはまとめがなく、多岐にわたっていると言える。また、口縁部形態・装飾・施文によって、以下のように分類した（ただし、破片が小さなものや摩滅の著しいもので、判別の難しいものは除外した）。

### I類 平口縁で、平行沈線文を有するもの。

ここでは、以下のようにa～d類に細別した。

（I a類）平口縁で、口縁部には平行沈線文だけを有するもの（6～11・26～28・32・40・50・67・74）。

平行沈線は3～5条で、3条が主体である。体部以下の地文は条痕文を施すものと繩文を施すものがある。条痕文はすべて縱方向に施されている。条痕文を施すものは繩文のそれに比べて、やや器壁も厚く、大ぶりな法量を持つ傾向がある（7・26～28・32）。繩文には、斜位回転して条を縱走させたLR繩文（6・8～10）を主体に、横位回転して条を斜行させたLR繩文（11・40・50・67）が続く。また、数は少ないが、縱走のRL繩文（74）も見られる。

（I b類）平口縁で、口縁部に平行沈線文を持ち、沈線間に粘土粒の突起を有するもの（30・38・39・41・43・44・46・50・55～57・61・73・79・81）。

平行沈線は5～8条で、5条が主体である。38の完形品では、沈線間に粘土粒の突起がほぼ等間隔で並んでおり、その他の破片資料も同様と推測される。ちなみに、ここでは2個一対の突起は見られない。また、体部以下の地文は繩文を施すものだけが確認できる。繩文には縱走させたLR繩文（38・39・44・57）が圧倒的に多く、その他は小破片のため、地文不明である

ものが多い。また、平行沈線の文様帶には地文の縄文が磨り消されずに、そのまま残されたものが多い（39・43・44・46・50・57・79・81）。

（I c 類）平口縁で、口縁部の平行沈線文に工字文を施すもの（29・52・60・139）。

ここで言う「工字文」とは、平行沈線中に縦方向の短い沈線を刻んだもので、大洞A式よりも退化した工字文として捉えることができる。また、52・139は縦の沈線を深く刻んでいたため、縦沈線の両側が隆起して、平行沈線の陽部と連結し、「π字状文」のように見える。これらはすべて平口縁と思われるが、小破片の資料であるため詳細は不明である。

（I d 類）平口縁で、平行沈線文に無文帶を有するもの（33・34・66）。

33・34は同一固体で、磨り消されずに残された縄文帶の下に、幅1cmの無文帶を丁寧なミガキによって作り出している。さらに、沈線中には粘土粒の突起が見られる。66も同じく縄文帶の下に、幅1cmの無文帶をミガキによって、作り出している。また、沈線中には2個一対の突起が見られる。

## II 類 山形突起を持ち、口縁部に平行沈線文を有するもの。

平行沈線は3～9条で、7条前後が主体を占める。12・16の状態の良い資料やその他の破片資料から推測すると、山形突起を有するものすべては、平行沈線文の間に粘土粒の突起を等間隔で配置するものと考えられる（ただし、35・62・64・78の資料は小破片のために、突起が見られないと推される）。

体部の地文は不明なものを除いて、縦走するLR縄文が圧倒的に多く（12～16・24・42・49・58・59・63・75）、横位回転して条を斜行させたLR縄文は極くわずかに見られる（18～20）だけである。ただし、口縁部に磨り消されずに残された縄文は、すべてLR斜行縄文である（14～16・24・31・35・48・51・62・64）。

山形突起は、以下のようにa～f類に細別した。

（II a 類）裾広がりの山形突起を呈するもの（24・25・48・58・59・62・69）。

（II b 類）a類と同じ裾広がりの山形突起で、突起頂部にヘラ押圧による1ヶの刻みを有するもの（13・14・21・35・49・63・75）。

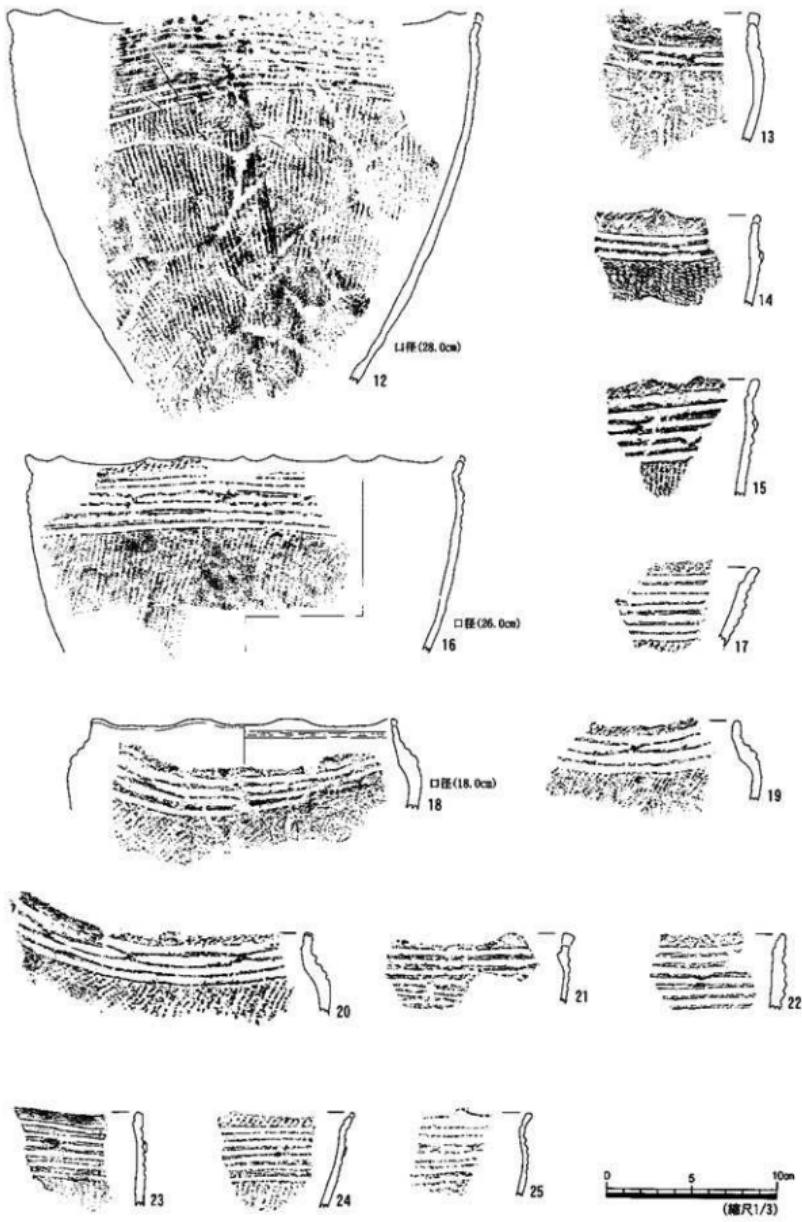
（II c 類）a類と同じ裾広がりの山形突起で、突起頂部にヘラ押圧による2ヶの刻みを有する。

また、口縁部形態は他の鉢形土器と異なり、頸部が著しく屈曲して、強く張り出す肩部を作り出す特徴がある（18～20）。

（II d 類）突起の頂部を大きく凹ませ、突起が2つに分かれるもの。連続した2個の突起を呈するもの（12・15・16・31・42・64・78）。

（II e 類）突起の頂部を抑え、平坦にしたもの。台形状を呈するもの（51）。

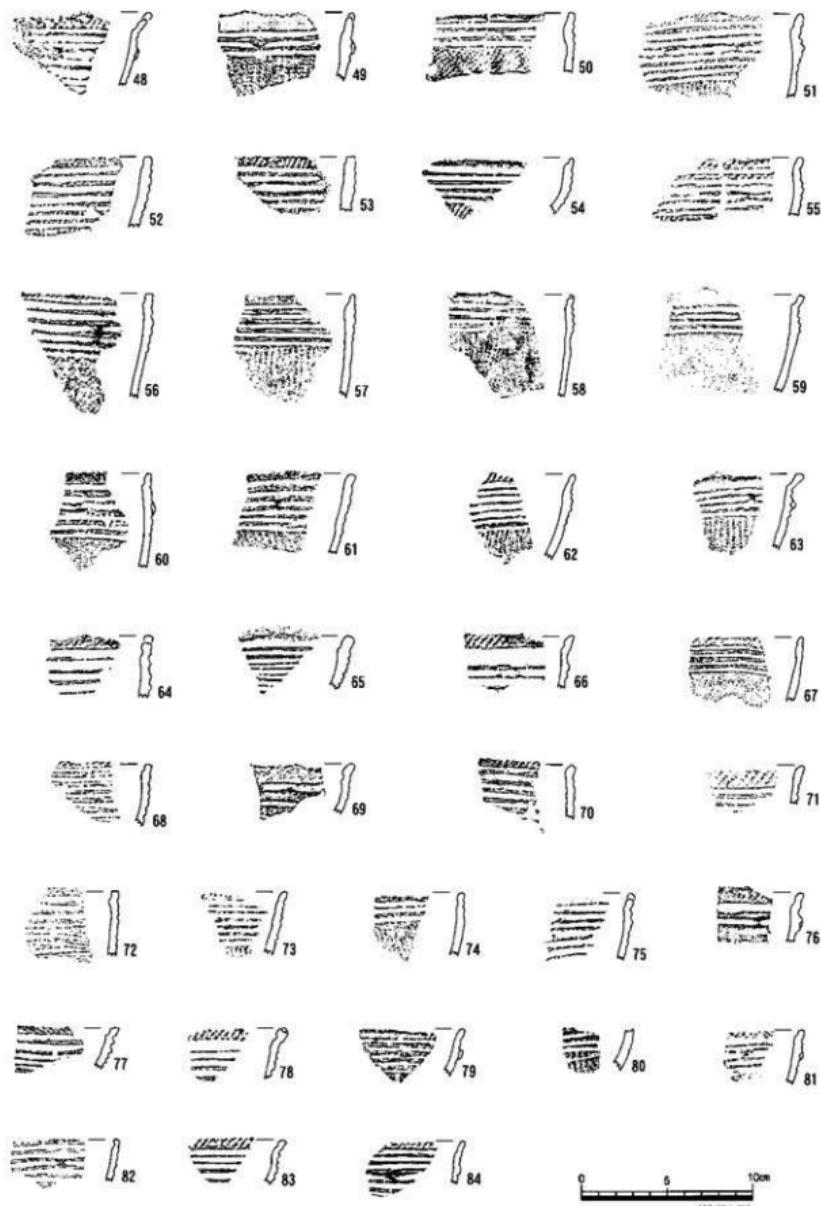
（II f 類）鰐状突起を呈するもの（247）。突起の内外面には太い沈線を1条施す。大型鉢と考えられる。



第12図 深鉢・鉢形土器 (2)



第13図 鉢形土器(3)



第14図 鋸形土器(4)

## 浅鉢形土器

浅鉢形土器の形態には体部が直線的に開くもの（I類）と体部上半が内湾し、下半が直線的になるもの（II類）に分かれる。また、炭化物が付着するものはほとんどなく、精巧に作られたものが多い。基本的には煮沸以外の用途で、供膳などの盛り付け用に使用されたと考えられる。主文様である「変形工字文」は浅鉢形土器だけに認められた。

厚さ＝3～6mm前後となる。胎土＝キメ細かいものや細粒砂の混入が目立つものがあるが、鉢・深鉢に比べて精製された胎土を用いている。内面調整＝丁寧なミガキを施すものが多い。地文＝縄文と無文がある。縄文にはLR縦走縄文が多く見られる。また、無文には丁寧なミガキによって研磨されたものが多い。色調＝明黄褐色など明るい色を呈するものが多い。また、黒色処理されて、光沢を持つようなものもある（89・101・164）。法量＝I類は口径14～16cm、器高4.8～7.2cm、底径4.0～10.0cmの範囲に含まれる小型土器である。一方、II類で器形全体の法量が知れるものは口径21.5cm、器高7.0cm、底径6.5cm（86）の1点だけであり、その他に良好な資料はない。II類の中で口径が推定できるものは24.0cm（85）と25.0cm（87）だけである。II類は口径が20～25cmほどで、I類より大型である。赤色顔料等＝65の口縁部に赤色顔料が付着する。口縁部形態・装飾・施文によって、以下のように分類した（ただし、破片が小さなものや摩滅の著しいもので、判別の難しいものは除外した）。

I類 体部が直線的に開くもの（133・135・137・148・153・164～170・191・196・198・203・253）。また、以下のようにa～c類に細別した。

（I a類）平口縁で、口縁部に変形工字文を有するもの（133・135・137・148・153・164～168・191・198・203）。体部の地文は丁寧なミガキによって研磨され、無文となる。底部には1条の平行沈線文を有するもの（164・167・168・191・196・198・203）が圧倒的に多く、そうでないものはわずかに1点（148）だけである。小破片のため、変形工字文の文様構成を把握できないが、164は変形工字文の中に1条の斜行沈線文が見られる。

（I b類）平口縁で、文様帶の幅が広く、体部全体に変形工字文を有するもの（169・253）。169と253は同一個体と思われる。169は体部の摩滅が激しく、小破片のため文様構成を詳しく知ることができないが、文様は縄文を地文とし、その上に沈線文を施している。地文の縄文は磨り消されずに、残っている。変形工字文は流水状に展開する工字文を配していると推される。

（I c類）波状口縁で、工字文を有するもの（170）。体部の地文には縄文を施す。

## II類 体部上半が内湾し、下半が直線的になるもの。

また、主文様の特徴から、以下のように a～c 類に細別した。

### (II a 類) 変形工字文を有するもの。

ここでの変形工字文は沈線等による粘土の掘り込みによって、逆に陽部を強調している。変形工字文の種類は以下のとおり I 型～V 型に細分した（第19図。ただし、変形工字文でも破片が小さなもので、判別の難しいものは除外した）。なお、分類に際しては、晩期終末から弥生時代の移行期における土器型式の変遷を示した工藤竹久氏の分類を引用・参考とした（工藤 1976）。

#### 変形工字文 I 型 (86・87)

流水状に展開する工字状の沈線。流水文。工藤氏の分類によれば、剣吉荒町 I 群 a の土器型式で、変形工字文 A 1（連続型）に相当する。

86は連続した小波状の口縁を持つ。文様帶の幅は2.5cmと狭く、4 単位を基本として、流水状の工字文が展開する。体部の地文はやや斜行した L R 繩文である。

87は平口縁で、文様帶の幅は3.0cmと前者に比べてやや広くなる。体部の地文はやや粗いミガキを施した無文となる。

#### 変形工字文 II 型 (89・101)

流水状に展開した沈線が三角形或いは台形を呈する連続した文様を作り出す。工藤氏の分類によれば、剣吉荒町 I 群 b の土器型式で、変形工字文 B 2（連続型）に相当する。

89は口縁部に大型の山形突起を持つ。さらに、大型突起の間には小突起がある。小突起は頂部を大きく凹ませ、連続した2個の突起となる。文様帶の幅は2.5cmと狭い。体部の地文は丁寧なミガキによって、無文となる。また、器面全体が黒色処理されて、光沢を持つ。101は89と同一個体と思われる。

#### 変形工字文 III 型 (88・90・99・96・102・119)

文様構成は変形工字文 II 型と類似するが、文様単位間に1～2条の斜行沈線文を伴う。工藤氏の分類によれば、剣吉荒町 I 群 b の土器型式で、変形工字文 B 1（連続型）に相当する。斜行沈線は1条のもの（88・90・96・102）、2条のもの（85）がある。体部の地文は確認できるものは、繩文だけであった。85・99は L R 斜行繩文、88・90は R L 斜行繩文であった。ちなみに88と119は同一個体である。

#### 変形工字文 IV 型 (97・100・117)

変形工字文 III 型と類似するが、文様単位間には斜行沈線文ではなく、平行沈線文を伴う。

口縁部はすべて波状口縁を持つ。体部の地文は L R 縦走繩文 (97・100) がある。

#### 変形工字文V型 (91・95・106・110・126・130・132)

文様構成は変形工字文II型と同じく、流水状に展開した沈線が幅広がりの三角形の文様帯を連続して作り出すが、その結節部に 3~5mm 大の明瞭な 2 個一対の粘土粒を貼り付ける。これらのすべての破片は同一個体と推される。口縁部は波状口縁となり、体部の地文は L R 斜行繩文である。91・132は平行沈線中にも 2 個一対の粘土粒が見られる。

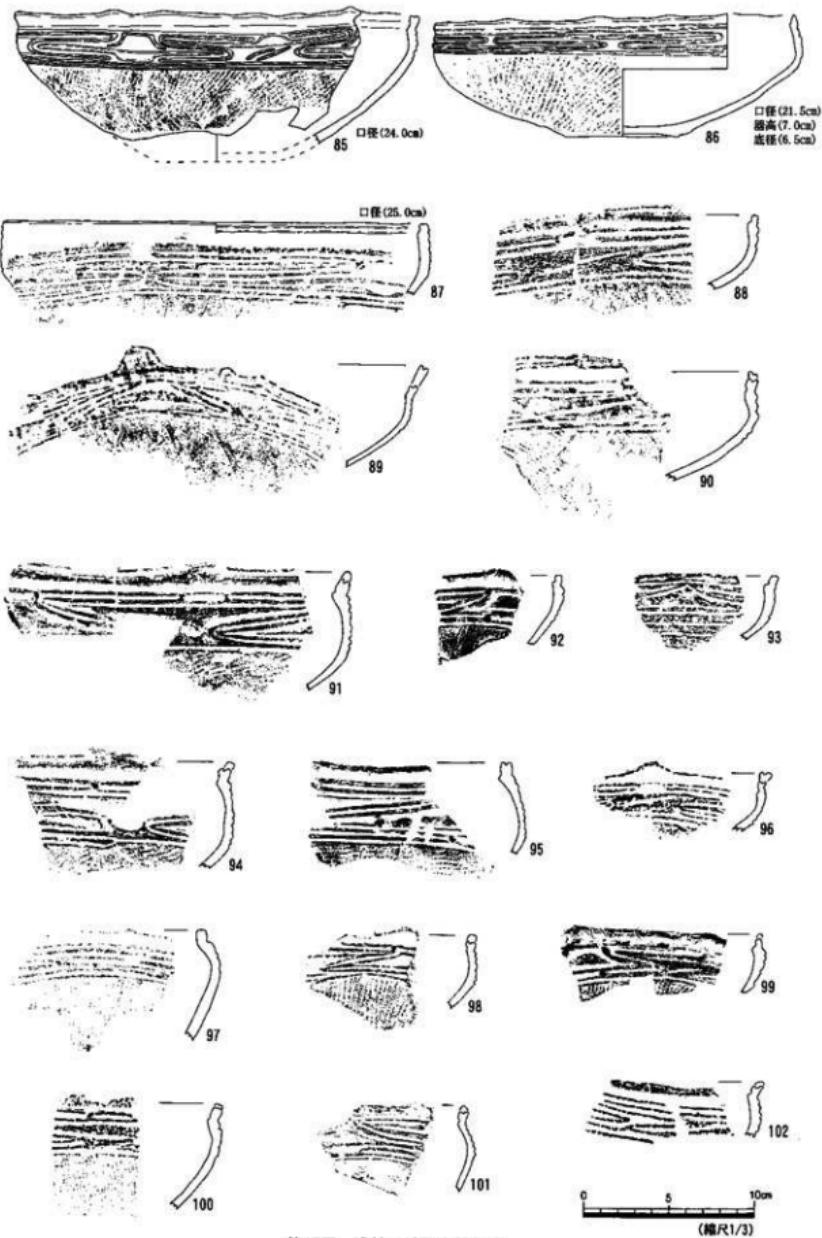
#### (II b 類) 工字文を有するもの (149・152)。

工字文には平行沈線中に縦方向の短い沈線を刻んだ粗略なもの (149) と丁寧に工字文を作り出すもの (152) のがある。149は平口縁で、地文は摩滅が激しいが、繩文が施されていると思われる。152は山形突起で、突起の頂部を大きく凹ませて、連続した 2 個の突起状を呈する。地文は R L 縦走繩文である。

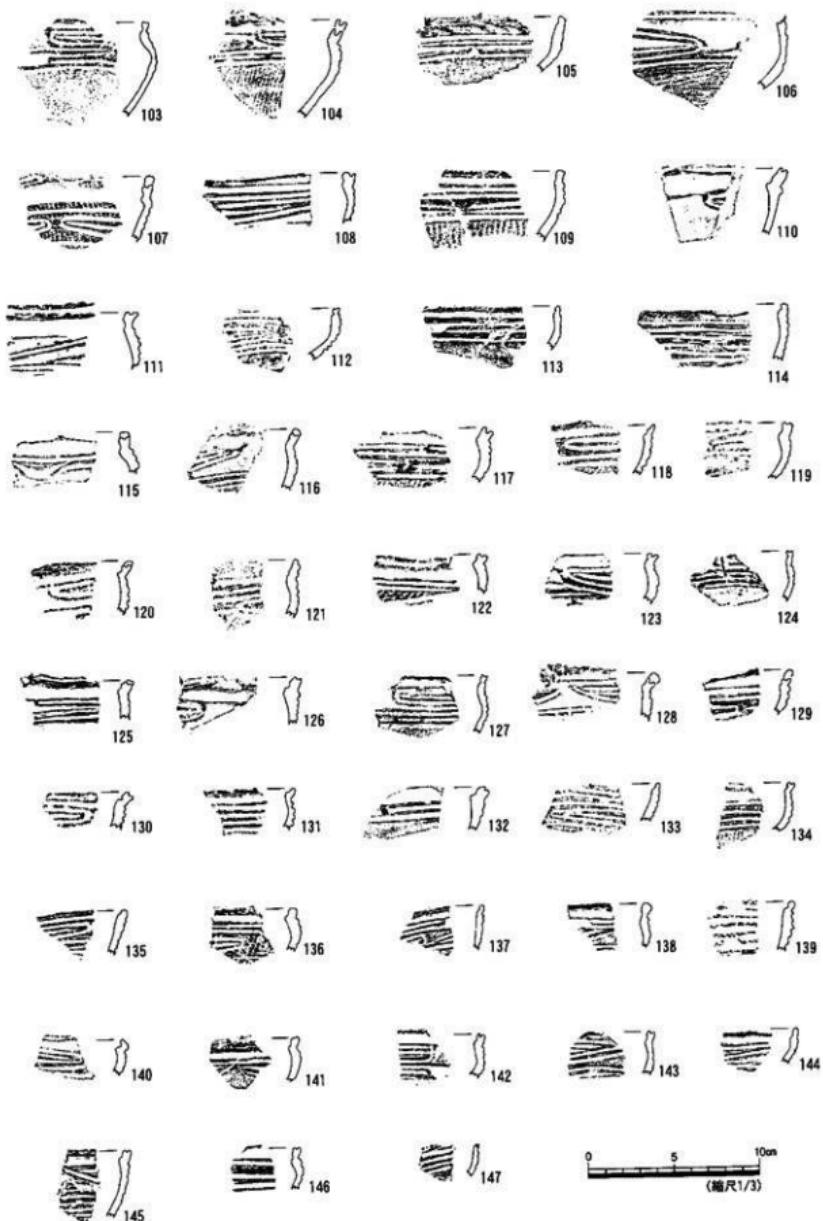
#### (II c 類) 「π字文・(匹字文)」を有するもの (105・113・150・154・156・157・159・163)。

体部の地文は丁寧なミガキによる無文 (105・113・154・156・157・159) が圧倒的に多く、その他には R L 斜行繩文 (150) が見られる。

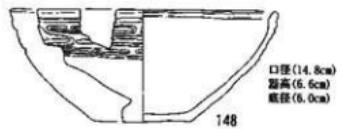
また、113・163は口縁部に 6~8mm のやや幅の狭い無文帯を持ち、π字状文を上下に反転させた「逆π字状」の沈線文となる。163には補修孔と思われる孔が 1 つ伴う。



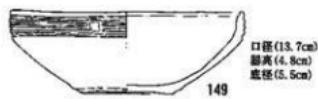
第15図 浅鉢・鉢形土器(5)



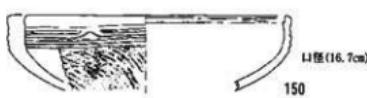
第16図 浅鉢・鉢形土器 (6)



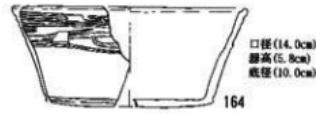
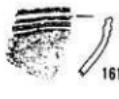
口径(14.8cm)  
器高(6.6cm)  
底径(6.0cm)



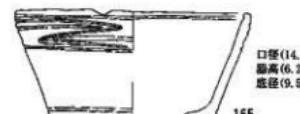
口径(13.7cm)  
器高(4.8cm)  
底径(5.5cm)



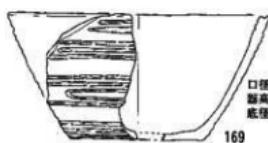
口径(16.7cm)



口径(14.0cm)  
器高(5.8cm)  
底径(10.0cm)



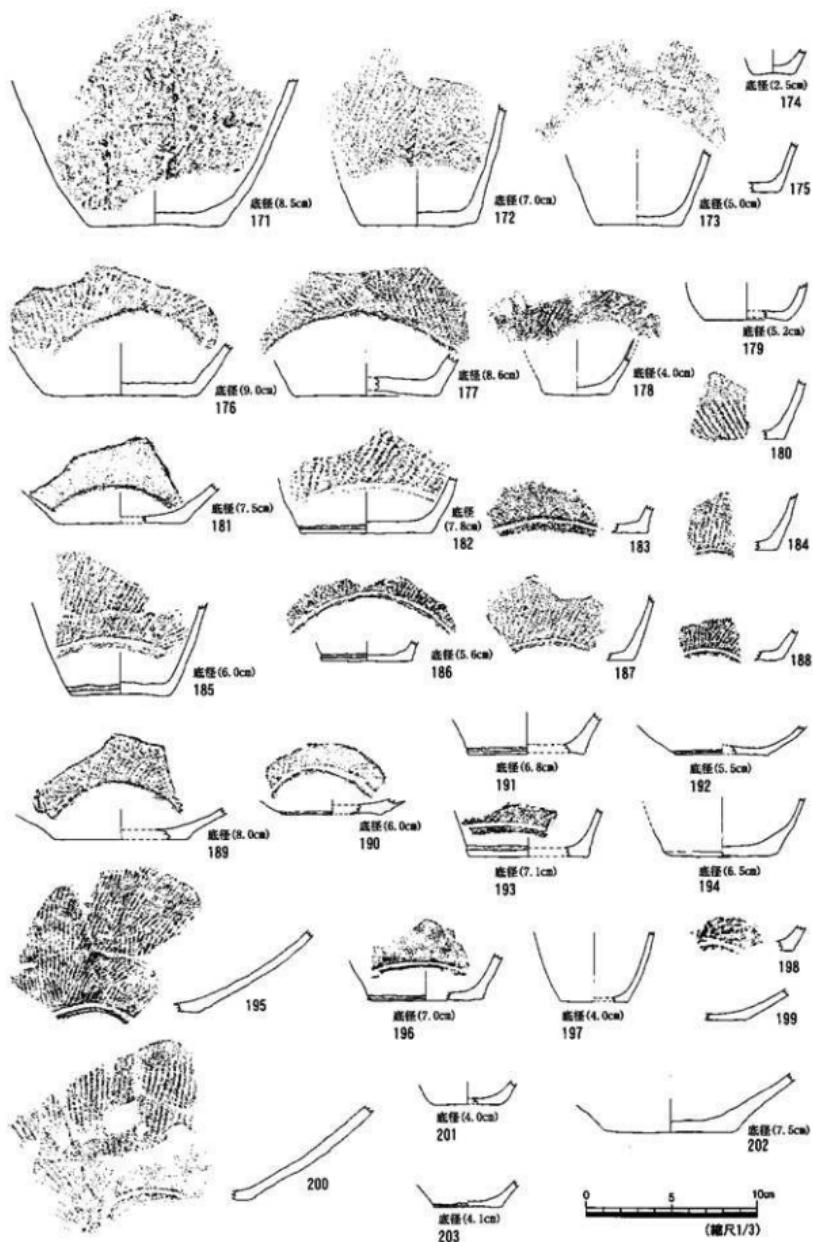
口径(14.0cm)  
器高(6.2cm)  
底径(9.5cm)



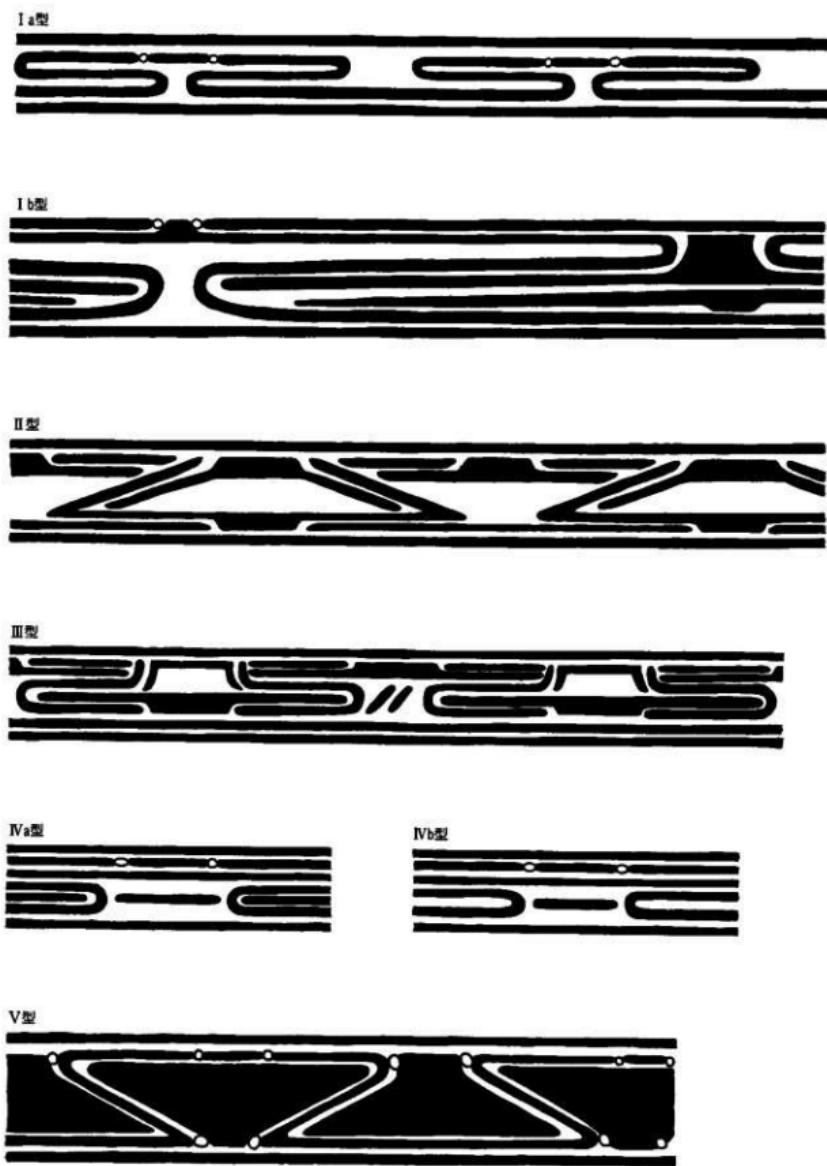
口径(15.4cm)  
器高(7.2cm)  
底径(8.0cm)



第17図 浅鉢形土器(7)



第18図 鉢形・壺形土器(底部) (8)



第19図 変形工字文の分類模式図

### 台付鉢形及び台付浅鉢形土器（207～229）

底部に台付を有する鉢形及び浅鉢形をまとめている。ただし、小破片のため、台部だけを掲載しており、上部形態が不明で、ほとんど器種を特定することができない。特徴的な点を挙げるとすれば、台部はすべて台形状を呈することである。ちなみに砂沢式期に特有な円筒形を呈するものは全く出土していない。また、台部外面に沈線を持つものは2点（221・228）しかなく、その他はすべて無文である。221は底部付近に1条、228は台部中位に1条が認められる。

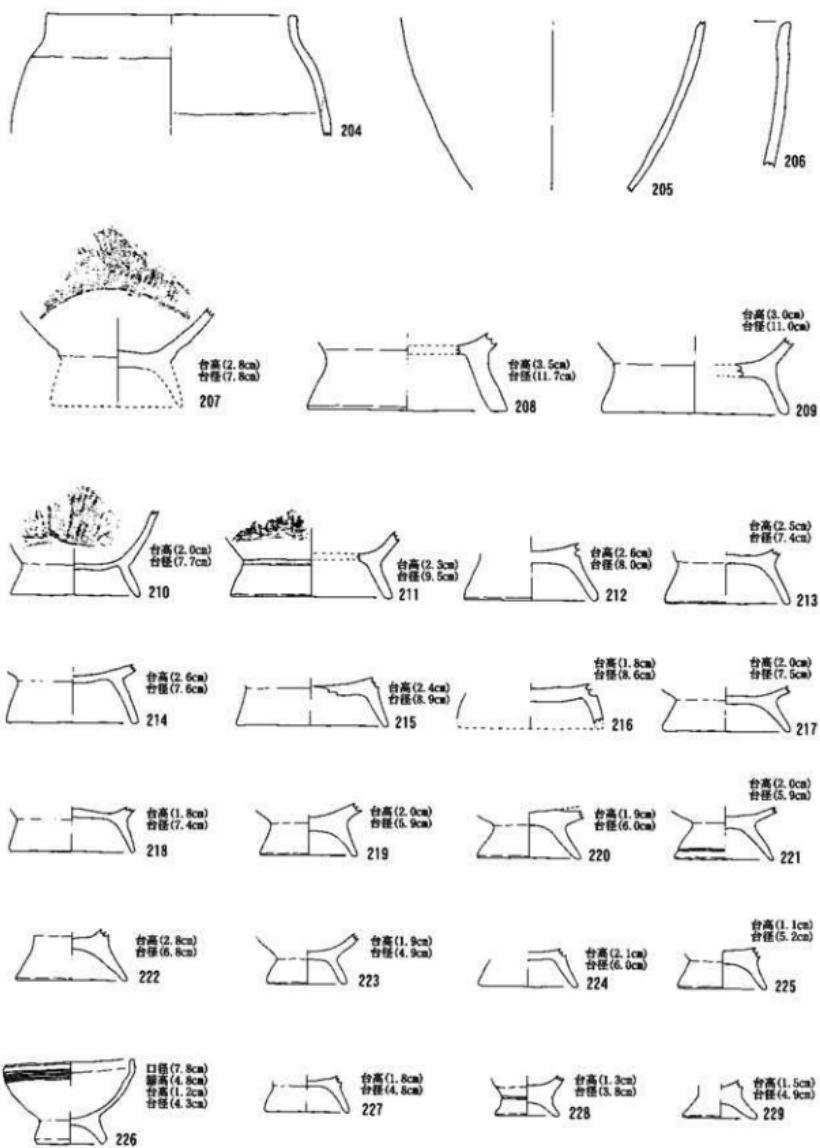
226は唯一完形品の台付浅鉢形土器である。口径7.8cm、器高4.8cm、台高1.2cm、台径4.3cmの小型品である。口縁部には平行沈線文3条がある。体部調整はケズリや粗いミガキによる無文となる。

台部における法量散布図を作成すると、以下のように大きく3群に分けられる（なお、法量を算出する際に、実測図によって台径を推定算出したものも含まれている）。

I群：台高1.1～2.1cm、台径3.8～6.0cmの範囲のもの。これは226の完形品が示すように、小型品を含む台付浅鉢形土器と考えられる。

II群：台高1.8～2.8cm、台径6.8～9.5cmの範囲のもの。浅鉢形及び深鉢形土器の両方が存在すると考えられる。

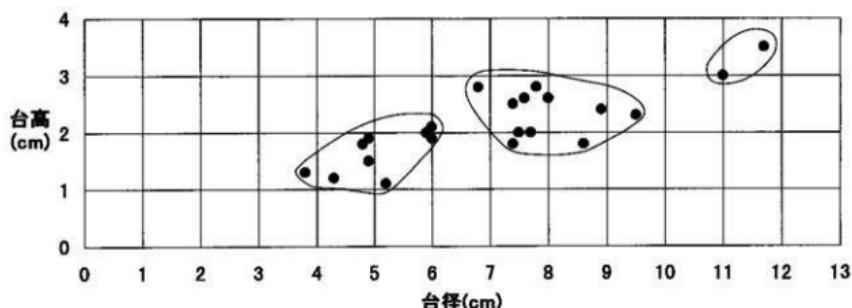
III群：台高3.0～3.5cm、台径11.0～11.7cmの範囲のもの。最も法量が大きく、大型の鉢形土器と考えられる。



第20図 塊形・鉢形土器(台付) (9)

0 5 10cm  
(縮尺1/3)

### 台付底部の法量散布図



第21図 台付底部の法量散布図

#### 壺形土器 (194・202・205・230~245)

壺形土器は鉢形や浅鉢形土器に比べて、出土点数が少ない。ここでは特徴のある口縁部・肩部・体部・底部破片を取り上げることにした。

口縁形態はやや外反気味に立ち上がるものが多い。口唇部には裾広がりの山形突起を持つもの(230)、突起頂部にヘラ押圧による1ヶの刻みを有するもの(231)がある。230・231は口縁部上位に2条の平行沈線文が走る。沈線の上位にはLR斜行繩文、下位には丁寧なミガキの無文となる。242は口縁部に、236・238は肩部にそれぞれ工字文風の沈線文が見られる。205・241・242・244・245は同一個体と思われる。体部の地文は丁寧なミガキによる無文で、精良な胎土を用いている。しかし、赤褐色をした表面と二次的な被熱による影響だろうか、表面に剥離痕が目立つ。また、アスファルト或いは漆と推される付着物が244・245に認められる。

233・240は肩部破片である。体部の地文はすべてLR縦走繩文である。また、内面調整では233は粗いケズリ調整に対して、240はケズリ調整後に、丁寧にミガキ調整を行っている。

234・235・237は体部地文に矢羽状沈線をもつ。それぞれ精良な胎土を用いており、表面が赤褐色を呈する。237は矢羽状沈線を挟むように、平行沈線3条を一对にした沈線文を配している。

194・202は底部破片である。194は底径6.5cmを測る。胎土が赤褐色を呈する。細かい砂粒が目立つ。202は底径7.5cmを測り、底部付近から序々に外反して立ち上がる。細かい砂粒が目立つ。外面は丁寧にミガキ調整が行われている。

243は細口壺の体部破片で、口縁部が欠損している。精良な胎土を用いており、表面は赤褐色を呈している。内外面とも丁寧なミガキ調整が施されている。また、二次的な被熱による影響だろうか、底部にだけ摩滅痕が目立つ。

### 蓋形土器 (248)

形態は円錐形を呈する。つまみは山形突起で、突起頂部をヘラ押圧によって大きく凹ませている。文様構成は沈線を3条一対として、三角形状に文様を作り出し、三角形状の沈線文を左右対称に4つを配置する。さらに三角形の区画文の中に刺突文を充填させている。

また、それぞれの三角形が接するところに粘土紐を貼り付け、隆帯を作り出している。ただし、1箇所だけ隆帯が見られないが、これは隆帯が欠損したものと考えられる。さらに、隆帯上には1条の沈線を施している。また、隆帯上に刺突列を施しているところもある。胎土は細粒が目立ち、やや器壁も厚く作られている。

なお、弘前市砂沢遺跡の砂沢式期の器種には文様構成で類似した蓋形土器が認められる。しかし、248は形態的に、より古い要素を含んでいると考えられる。

### その他の時期の土器 (250~252・254)

土器全体の中では極くわずかであるが、縄文時代後期に相当する土器片が4点出土している。

250・251は深鉢形で、十腰内I式に相当する。250は幅の広い沈線文を施す。251は磨消縄文による丁寧なミガキ痕と櫛状工具による渦巻文が見られる。

252は丸底鉢形で、腰部に刺突列が見られる。十腰内III式に相当するであろうか。

254は深鉢形で、後期末葉の十腰内V式に相当する。2条の平行沈線文の中に連続した刺突列が見られる。

### 〈土製品〉

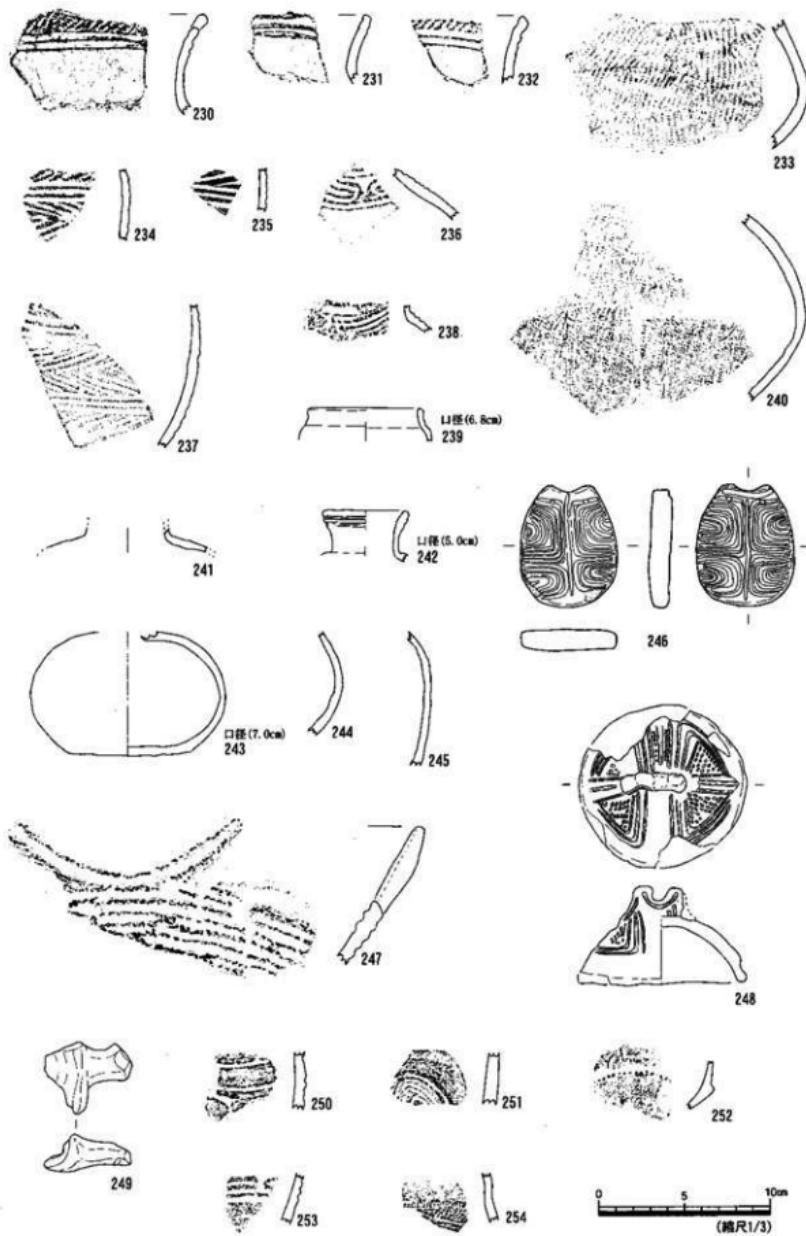
土製品の出土は非常に少なく、土版とスプーン形土製品と考えられるものが、それぞれ1点ずつ出土している。

#### 土版 (246)

246は縦7.2cm、横5.6cm、厚さ1cmの大きさをもつ梢円形の土版（板状製品）である。梢円形の一端はくぼみを有しており、これが上端となろう。上端部には2個一対の直径2mm程の貫通孔を有する。渦巻き状に彫刻された文様が左右対称に4個見られる。これは表裏両面に同じ模様をもつため、どちらが表裏なのか俄かに判別できない。胎土はやや粗い砂粒が目立つが、極めて精緻な彫刻を施している。刻み込まれた渦巻き文の中に赤色顔料が塗布された痕跡が確認できる。用途としては貫通孔に紐を通して、ペンダントとして使用していた可能性が高く、信仰に関わるもの（携帯用の護符）であろう。

#### スプーン形製品 (249)

249はスプーン形土製品の柄の部分と推され、皿形の箇所が欠損している。また、柄の先端も欠損している。胎土は粗い砂粒が目立ち、やや粗雑な感を受ける。



第22図 壺形・鉢形土器・その他 (10)

## 〈石器〉

今回の調査で出土した石器には、石鎌・尖頭器・石匙・スクレイバー・石錐である剥片石器や磨製石斧・蔽石・磨石などの礫石器がある。その他に石器ではないが、遺跡に持ち込まれた黒曜石・赤鉄鉱（ベンガラ）が多く出土する特徴をもつ。土器の出土状況と合わせて考えると、これらの石器はすべて剣吉荒町I群（大洞A式新段階～大洞A'式古段階）に伴うものと考えられる。石器等については、時間的な制約もあって実測図の掲載ができず、不十分な内容となっている。詳細については写真と石器観察表で対応していただきたい。ここでは概要を述べるに留めておく。

### 石鎌（255～272・図版13-1）

19点の石鎌が出土している。石鎌の形態分類については鈴木道之助氏の分類によった（鈴木1991）。これは石鎌基部の形状による分類で、凸基無茎（6点）、凸基有茎（10点）、平基有茎（2点）となる。これらの石材はすべて珪質頁岩である。石鎌は使用されたためであろうか、先端や基部が欠損しているものが多い。

### 尖頭器（272・図版13-1）

272は全長44.3mm、幅27.8mmであり、大ぶりな石鎌と比べると長さはさほど変わらないが、より幅広で扁平なものであることから、石鎌と区別した。これは先端部だけ刃部調整が見られないことから、製作途中のものと思われる。石材は珪質頁岩である。

### 石匙（274～277・図版13-2）

4点の石匙が出土している。柄の主軸が刃部と平行する縦型石匙1点（274）、柄の主軸が刃部と直交する横型石匙2点（275・276）、横型石匙の柄部分と思われるもの1点（277）が出土している。ただし、横型石匙2点は刃部調整を全く行っておらず、連続した小剥離の使用痕のみが認められる。縦型石匙は一部に欠損はあるが、長辺に刃部両面調整、短辺に片面調整を行っている。石材は玉髓1点（276）のほか、残り3点はすべて珪質頁岩である。

### スクレイバー（278～282・図版13-2）

刃部調整がなされている剥片が5点出土している。石材はすべて珪質頁岩である。

### 磨製石斧（283～284・図版13-2）

2点の磨製石斧が出土しており、どちらも欠損している。283は蛤刃形の刃部が残る。石材は頁岩である。284は基部のみが残る。石材は緑色細粒凝灰岩である。

### 敲石 (287~298・図版14)

12点の敲石が出土している。敲石は肉厚で、楕円形や球形を呈した自然礫（川原石）を用いている。大きさは縦7.6cm~11.1cm、横5.3cm~8.8cm、厚さ2.9cm~4.8cm、重さ262g~600gの範囲におさまる。ちょうど片手の中に余る大きさである。後述する磨石とは明確な法量差がある。これらの敲石は打痕による明瞭な敲きの痕跡だけでなく、擦痕も認められるものが多く、二つの機能を備えているものが多い。また、打痕によって大きな窪みを有する凹石と呼ぶべきものもある。さらに、石錐と思われる礫の四方を大きく窪ませるものがある（292・296）。石材には流紋岩、安山岩が多く、これに頁岩が少量伴う。

### 磨石 (299~379・図版15、16)

81点の磨石が出土している。本遺跡から出土した石器の中で、最も出土量が多い。ここで磨石としたものは、形状が扁平で楕円形・長楕円形とした自然礫（川原石）である。大きさは縦4.9cm~9.8cm、横1.9cm~5.2cm、厚さ0.5cm~1.9cm、重さ14g~128gの範囲におさまる。ちょうど片手に包み込むことができる大きさで、前述した敲石に比べて小さい。磨石は端部に面を作るほど擦痕が明瞭になるものが多い。また、磨石の平面や長辺に当たる側面にも明瞭な打痕があり、敲石としても利用されている。石材には頁岩が多く、安山岩、流紋岩が少量伴う。ここでは法量差と主要な機能の違いによって、敲石と区別した。

### 自然孔石 (285・286)

ここでは人為的ではなく、自然に貫通した孔が認められるものを自然孔石とした。2点確認されているが、石質はすべて頁岩である。こうした自然に貫通した孔がある石は七里長浜の海岸で採取することができるが、何らかの理由で、遺跡に持ち込まれたものと推される。

### 玉材原石について（巻首図版）

白緑色を呈する玉砂利で、穿孔途中である未貫通の玉材1点を発見した。そこで、改めて調べ直したところ、玉材と推される原石が15点もあることが分かった。石材については肉眼観察では明確にはできなかったが、ヒスイ或いは他の石材の可能性も考えられるとの所見をいただいた。今後は自然科学分析による石材の産地同定は行っていきたい。

### 黒曜石について（巻首図版）

黒曜石はIA地区で84点（重量398g）、IB地区で14点（重量45.8g）が出土している。黒曜石の大半はフレイクであり、IA地区から石錐1点、石鎌1点の計2点の石器が出土しただけである。しかし、大半の石質は気泡が多く、製品として利用できなかったと思われる。本遺跡の近辺には日本海側に面した七里長浜（出来島）に黒曜石の産地が知られている（鈴木・新戸部1983）。恐らく七里長浜産の黒曜石が多く持ち込まれたものと推される。

しかし、381の石錐（巻首図版）は七里長浜産と考えられる黒曜石とは明らかに石質が異なつておる、七里長浜産以外の黒曜石も含まれているとの所見をいただいた。

#### 赤鉄鉱（ベンガラ）について（巻首図版）

ベンガラの原石である赤鉄鉱はIA地区で36点（重量939.6g）、IB地区で5点（重量256.2g）出土している。遺跡近辺で赤鉄鉱を産出する場所は、今別町赤根沢産が知られており、ここから持ち込まれた可能性が高いと考えられる。また、赤色顔料を塗布した遺物には精製の浅鉢形土器、土版など数点の特殊品に認められ、ベンガラ（第二酸化鉄）を用いた可能性が高い。

## 第V章　まとめ

ここでは平成11・12年度に実施した岩井・大沼遺跡の発掘調査の概要をまとめる。

1. 調査の結果、第I地区から多くの破損した土器や石器、剥片等の遺物が出土した。第I-A地区では良好な状態で遺物包含層が残されていたものの、第I-B地区では大きく擾乱を受けていた。また、占地を見ると、A地区は標高20mほどの丘陵緩斜面に当たっており、旧湖沼（大沼）に向かって緩やかに下る緩斜面にあることから、「土器捨て場」であったと考えられる。なお、遺構は確認できなかったが、溝状に走る風倒木痕が9箇所ほど見つかっている。
2. 土器型式は浅鉢形土器に見られる変形工字文の主文様から、縄文時代晩期末葉の大洞A式から大洞A'式の間（大洞A式新段階～大洞A'式古段階）に位置するもので、工藤竹久氏の分類では剣吉荒町I群に相当する土器型式が主体的に出土している。  
また、管見の限りでは、縄文後期の土器を4点確認したものの、その他の時期の土器を全く含まないまとまりのある一括性の高い土器群と考えられる。津軽地域における当該期の良好な資料を提示できるであろう。器種構成には深鉢形（變形も含む）、（台付）鉢形、（台付）浅鉢形、壺形土器、蓋形土器がある。その他、土製品には土版、スプーン形製品などの特殊品も認められた。ここでは、後続する砂沢式（大洞A'式新段階）の範疇に含まれる土器は認められなかった。また、遠賀川系土器の搬入も認められない。
- 周辺には直線距離で約1kmの所に五月女窓遺跡という縄文時代晩期前葉～後葉（大洞B式～大洞A式）を中心とした大規模遺跡がある。今後、五月女窓遺跡から岩井・大沼遺跡への縄文人の集落移動だけでなく、連続した土器型式の変遷を理解する手助けとなるであろう。

3. 石器には、石鎌・尖頭器・石匙・石錐・スクレイバーである剥片石器や磨製石斧・敲石・磨石などの礫石器がある。特に磨石の出土が最も多い。その他に石器ではないが、遺跡に持ち込まれた黒曜石・赤鉄鉱（ベンガラ）が多く出土するという特徴をもつ。土器の出土状況と合わせて考えると、ほとんどの石器は縄文時代晩期末葉に伴うものと考えられる。
4. 大沼・岩井遺跡の集落がどこに営まれていたかは、地形の変化も激しく容易に判断することができない。当初、集落が存在する可能性が最も高いと推定されていた大沼北岸の丘陵上（第II地区）は、試掘調査の結果では全く遺構・遺物を検出することができなかつた。そこで、本調査で確認した大沼南岸の土器捨て場の周辺に集落を求めるすると、さらに南の谷地形を挟んだ現在の市浦中学校の敷地内が最も有力視される。理由として、周辺は標高25mほどで、地形的には最も高い場所に位置しており、広い平地を確保しているからである。さらに不確かな情報ではあるが、かつて市浦中学校の校舎新築時に縄文土器が出土したと言われており、今後は分布調査や踏査によって、遺跡の範囲・時期等を含めた実態を把握していきたい。

#### 《引用・参考文献》

- 青森県教育委員会 1999 「十腰内(1)遺跡—県営津軽中部広域農道建設事業に伴う遺跡発掘調査報告一』青森県埋蔵文化財調査報告書 第261号
- 青森県立郷土館 1984 「亀ヶ岡石器時代遺跡」
- 青森県立郷土館 1988 「名川町剣吉荒町遺跡(第2地区)発掘調査報告書」
- 工藤 竹久 1976 「東北北部における亀ヶ岡式土器の終末」『考古学雑誌』72-4
- 工藤竹久・高島芳弘 1986 「是川中居遺跡出土の縄文時代晚期終末期から弥生時代の土器」『八戸市博物館研究紀要』第2号
- 市浦村教育委員会 1983 「市浦村五月女墓遺跡」
- 鈴木克彦 1981 「青森県における亀ヶ岡文化研究の現状と課題」『考古風土記』第6号
- 鈴木克彦・新戸部隆 1983 「日本海七里長浜の黒曜石原石採取踏査」
- 鈴木道之助 1991 「図録・石器入門事典(縄文)」
- 須藤 隆 1999 「山内清男考古資料10 岩手県足沢遺跡資料」奈良国立文化財研究所第50冊
- 弘前市教育委員会 1987 「砂沢遺跡 発掘調査報告書—図版編一』  
1990 「砂沢遺跡 発掘調査報告書—本文編一』
- 弘前大学考古学研究室 1981 「牧野II遺跡出土遺物について(1)—岩木山麓の縄文時代終末期の土器資料—」
- 名川町教育委員会 1984 「剣吉荒町遺跡発掘調査報告書」
- 三厩村教育委員会 1996 「字鉄遺跡 三厩村統合中学校建設工事に係わる発掘調査報告書」

## 遺物観察表

### 凡例

#### 〈土器観察表〉

遺物番号：報告書の通し番号。

器種：深鉢・(台付)鉢・(台付)浅鉢などの用途・形態別の名称。

胎土：土器に含まれる砂粒の形状。胎土の肉眼観察により、「キメ細かい」「細粒目立つ」「粗粒目立つ」の大きく3つに分類した。

外面の主文様・地文等：文様・体部地文の観察。

内面調整：ケズリ及びミガキ調整がある。

備考：口縁部の形状、内面の文様。その他の特記事項を記入。

整理番号：調査時の取り上げ番号。遺物の注記番号。

図版写真：遺物写真の掲載図版番号。

#### 〈石器観察表〉

遺物番号：報告書の通し番号。

種類：石鋸・尖頭器・石匙・磨製石斧・敲石・磨石などの用途別の名称。

出土位置：グリットX・Yで表示。

標高(m)：遺物の出土地点の標高。単位はメートル。

形態：種類別に形態の特徴を分類。

法量：石鋸・尖頭器の法量は全長(cm)・先頭部長(cm)・幅(cm)・厚さ(cm)・重さ(g)で示した。

石匙・スクレイバー・磨製石斧・自然孔石・敲石・磨石は縦(cm)・横(cm)・厚さ(cm)・重さ(g)で示した。

石材(色)：石材及び色調。石材は肉眼観察による。色調観察には「新版・標準土色帳」(農林水産技術会議事務局 1995年)を使用した。

備考：特記事項を記入。

整理番号：調査時の取り上げ番号。遺物の注記番号。

図版写真：遺物写真の掲載図版番号。

## 岩井・大沼透跡 土器觀察表

遺物番号	種類	出土	外見の主文様・地文等	内部調査	備考	整理番号	説明写真
1	縦	縦砂粒目立つ	輪文帶(ナガ), 無底文	丁寧なミガキ		001 A - 2827	図版6-1
2	(縦)	縦砂粒目立つ	輪文(ナガ), 無底文	ミガキ	波状口縫	001 A - 3793	図版6-1
3	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(1条), 条文(2)	丁寧なミガキ	波状口縫(口縫に施錆したキズミが並ぶ)	001 A - 2819	図版6-1
4	縦	縦砂粒目立つ	輪文(ナガ), L.R.輪文(既存)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3167	図版6-1
5	(縦)	縦砂粒目立つ	L.R.輪文(既存)	丁寧なミガキ	円錐の縫跡孔あり(1ヶ月)	001 B - 0874	図版6-1
6	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文(既存)	ミガキ		001 A - 2784	図版6-1
7	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条), 条文(2)	ミガキ		001 A - 0429	図版6-1
8	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ		001 A - 2790	図版6-1
9	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	表面が大きく剥離	001 A - 2733	図版6-1
10	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文(既存)	ミガキ		001 A - 3014	図版6-1
11	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条), L.R.輪文	丁寧なミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 13306	図版6-1
12	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(9条), L.R.輪文(既存)	丁寧なミガキ	山形突起, 施錆部は舟形によるへこみ, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3457	図版6-1
13	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 花瓶中に突起(2ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 2つの突起部はそれぞれへと押圧による痕み, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 0629	図版6-2
14	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 比縞中に突起(1ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 施錆部にはへと押圧による痕み, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 0616	図版6-2
15	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(1ヶ), 工字文(2), L.R.輪文(既存)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2758	図版6-2
16	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(7条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2230	図版6-2
17	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(7条), L.R.輪文	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 0434	図版6-2
18	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 化粧中に2箇-対の突起と突起(1ヶ)の位置, L.R.輪文	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3994	図版6-2
19	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3325	図版6-2
20	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条), 化粧中に突起(1ヶ)が等間隔で3ヶ並ぶ, L.R.輪文	ケズリ+ミガキ	山形突起, 施錆部は舟形による痕み(2ヶ), 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2601	図版6-2
21	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(8条?), 化粧中に突起(1ヶ)等間隔で2ヶ並ぶ	ミガキ	山形突起, 施錆部は舟形による痕み(1ヶ), 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3291	図版6-2
22	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(8条?), 化粧中に突起(1ヶ)等間隔	丁寧なミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 0424	図版6-2
23	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	ケズリ+ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3728	図版6-2
24	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(7条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2294	図版6-2
25	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(7条), 化粧中に突起(2ヶ), 無文(ミガキ)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 4121	図版6-2
26	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 条文(2)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2779	図版6-1
27	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 条文(2)	ケズリ+ミガキ		001 A - 0877	図版6-1
28	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 条文(2)	ミガキ		001 A - 0319	図版6-1
29	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条), L.R.輪文(既存)	丁寧なミガキ		001 A - 3703	図版6-1
30	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(1ヶ), R.L.輪文	ケズリ+ミガキ	口縫内側に平行比縞文(2条)	001 A - 2105	図版6-1
31	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条?), 化粧中に突起(1ヶ), R.L.輪文	ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 0760	図版6-1
32	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 条文(2)	ミガキ	背面には施錆による痕み	001 A - 3910	図版6-1
33	縦	縦砂粒目立つ	木葉型(丁寧なミガキ), 平行比縞文(3条?), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条), 34と同一物体	001 A - 2554	図版6-1
34	縦	縦砂粒目立つ	木葉型(丁寧なミガキ), 平行比縞文(3条?), L.R.輪文	ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条), 33と同一物体	001 A - 3385	図版6-1
35	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条?), L.R.輪文	ミガキ	山形突起, 施錆部は舟形による痕み(1ヶ), 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 B - 0710	図版6-1
36	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条?), 化粧中に突起(1ヶ), <文字, 地文不明	ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条), 今後も磨拭が欲しい	001 A - 0009	図版6-1
37	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条?), 化粧中に突起(1ヶ), 地文不明	ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条), 今後も磨拭が欲しい	001 A - 2543	図版6-1
38	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条?), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文(既存)	ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条), 光形	001 A - 2827	図版6-2
39	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条?), 化粧中に突起(2ヶ), L.R.輪文(既存)	ミガキ		001 A - 2145	図版6-2
40	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条), L.R.輪文	ケズリ+ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2827	図版6-1
41	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(4条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	ケズリ+ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2497	図版6-1
42	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(2ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫部に疣目(1ヶ), 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 4093	図版6-1
43	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	ケズリ+ミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 B - 0623	図版6-1
44	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条), 化粧中に突起(2ヶ), L.R.輪文(既存)	ミガキ	丁寧なミガキ	001 A - 3405	図版6-1
45	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), R.輪文	丁寧なミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 4230	図版6-1
46	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	丁寧なミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 4209	図版6-1
47	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条?), 瓢文	丁寧なミガキ	口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2303	図版6-1
48	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(7条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 2118	図版6-2
49	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 施錆部に疣目(1ヶ), 口縫内側に平行比縞文(2条)	001 A - 0617	図版6-2
50	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文	ミガキ		001 A - 3192	図版6-2
51	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文	ミガキ		001 A - 0099	図版6-2
52	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(7条), L.R.輪文	ミガキ		001 A - 1703	図版6-2
53	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条), 化粧中に突起(1ヶ), L.R.輪文	ミガキ		001 A - 4258	図版6-2
54	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(3条), L.R.輪文	ミガキ		001 A - 2558	図版6-2
55	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(2ヶ), L.R.輪文	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 3457	図版6-2
56	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(6条), 化粧中に突起(1ヶ月), 地文不明	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 B - 0006	図版6-2
57	縦	縦砂粒目立つ	平行比縞文(5条), 化粧中に突起(2ヶ), L.R.輪文(既存)	ケズリ+ミガキ	山形突起, 口縫内側に平行比縞文(1条)	001 A - 1945	図版6-2

遺物番号	巻	種	地	土	外面の主文様・地文等	内部調整	標	考	索引番号	国別写真
58	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(4条), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2980	国版6-2	
59	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(4条), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3195	国版6-2	
60	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(6条), 沈縞中に突起(1ヶ), 上文字, L.R.縞文(底走)	ミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-B-0750	国版6-2	
61	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(6条), 沈縞中に突起(1ヶ), 右L.R.縞文	ミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-B-0590	国版6-1	
62	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(7条), L.R.縞文(底走)	ミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3203	国版6-2	
63	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(4条), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3121	国版6-2	
64	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(4条?)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2356	国版6-1	
65	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(7条)	ミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条), 赤色顔料付着			00 I-A-2832	国版6-2	
66	鉢	無地	平行沈縞文(2条?), 地文中に2個一对の突起, L.R.縞文	ミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0628	国版6-2	
67	鉢	無地	平行沈縞文(4条), L.R.縞文	ケズリのみ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0432	国版6-1	
68	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(7条?), L.R.縞文	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2863	国版6-1	
69	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(2条?), L.R.縞文	ミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3067	国版6-1	
70	鉢	無地	平行沈縞文(5条?), 沈縞中に2個一对の突起, 縞文	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3759	国版6-1	
71	鉢	無地	平行沈縞文(3条?), 無地	丁寧なミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3323	国版6-2	
72	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(8条?), 地文不明	丁寧なミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0465	国版6-1	
73	鉢	無地	平行沈縞文(7条?), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文(底走)	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3207	国版6-1	
74	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(3条?), L.R.縞文(底走)	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0734	国版6-2	
75	鉢	無地	平行沈縞文(6条), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-B-0744	国版6-1	
76	鉢	無地	平行沈縞文(3条?), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文	丁寧なミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0016	国版6-1	
77	鉢	無地	平行沈縞文(5条?), L.R.縞文	丁寧なミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3119	国版6-1	
78	鉢	無地	地文削(ナメ), 平行沈縞文(3条?), L.R.縞文	ミガキ	山形突起, 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2342	国版6-1	
79	瓶	細砂粒立つ	平行沈縞文(5条), 沈縞中に突起(1ヶ), L.R.縞文	丁寧なミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2847	国版6-1	
80	鉢	キメ細かい	平行沈縞文(3条?), L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0877	国版6-1	
81	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(4条), 沈縞中に先起(1ヶ), 縞文	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2326	国版6-1	
82	鉢	無地	平行沈縞文(5条?), 沈縞中に突起(1ヶ), 地文不明	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2302	国版6-1	
83	鉢	無地	平行沈縞文(4条?), L.R.縞文	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2013	近江	
84	鉢	無地	平行沈縞文(6条?), 沈縞中に突起(1ヶ), 無地	ケズリミミガキ	口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-1948	国版6-1	
85	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縁部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条), 斜向に補修孔, ハンドルの可能性もあり			00 I-A-0972	近江	
86	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縁部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3161	国版6-2	
87	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文(ミガキ)	ケズリミミガキ	既存火痕, 口縁部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-2827	国版6-4	
88	浅鉢	細砂粒立つ	更紗工字文, R.L.縞文	ミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条), 全体に摩耗が激しい, 金型付立つ			00 I-A-2997	国版6-1	
89	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, 無文(丁寧なミガキ)	丁寧なミガキ	山形突起, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条), 黒色で光沢あり			00 I-A-2503	近江	
90	浅鉢	無地	細砂粒立つ	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条), 金型母貝日立つ			00 I-A-0771	近江	
91	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, L.R.縞文	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0972	近江	
92	浅鉢	無地	細砂粒立つ	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3161	国版6-2	
93	浅鉢	無地	細砂粒立つ	更紗工字文?, 無文	ケズリミミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-2526	国版6-2	
94	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, L.R.縞文	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3171	近江	
95	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-1821	近江	
96	浅鉢	無地	細砂粒立つ	更紗工字文, 地文不明	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-2881	国版6-1	
97	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0039	国版6-1	
98	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-1948	国版6-2	
99	浅鉢	無地	更紗工字文, L.R.縞文	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-3191	国版6-1	
100	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0994	国版6-2	
101	浅鉢	無地	更紗工字文, 無文(丁寧なミガキ)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条), 黒色の修理で光沢あり			00 I-A-2525	国版6-2	
102	浅鉢	無地	更紗工字文, 地文不明	ケズリミミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-4334	国版6-2	
103	浅鉢	無地	細砂粒立つ	更紗工字文, 無文(ミガキ)	ミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条), 全体に摩耗が激しい		00 I-A-0741	国版6-2	
104	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, L.R.縞文(底走)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-B-0196	国版6-2	
105	浅鉢	無地	細砂粒立つ	大文字, 無文(ミガキ)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-2265	国版6-2	
106	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, L.R.縞文	ミガキ	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-1838	国版6-2	
107	浅鉢	細砂粒立つ	更紗工字文, 地文不明	ミガキ	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-4223	国版6-2	
108	浅鉢	細砂粒立つ	更紗工字文?, 地文不明	ミガキ	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-0818	国版6-2	
109	(陶)鉢	キメ細かい	更紗工字文, L.R.縞文(底走)	ミガキ	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)		00 I-A-4272	国版6-2	
110	浅鉢	無地	更紗工字文, 地文不明	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-1826	国版6-2	
111	浅鉢	細砂粒立つ	更紗工字文, 地文不明	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0403	国版6-2	
112	浅鉢	キメ細かい	更紗工字文, 無文(丁寧なミガキ)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に沈縞文(1条), 口縁内側に平行沈縞文(1条)			00 I-A-0401	国版6-2	
113	浅鉢	無地	細砂粒立つ	大文字, 無文(丁寧なミガキ)	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に平行沈縞文(1条)		00 I-A-3112	国版6-2	
114	鉢	細砂粒立つ	平行沈縞文(7条?), 地文不明	丁寧なミガキ	既存火痕, 口縫部に平行沈縞文(1条)			00 I-B-0310	国版6-2	

題物番号	標 備	附 上	外觀の上文標・地文等	内面調査	考		整理番号	図版写真
					筆	墨		
115	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口唇部に沈縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0157	図版R-2	
116	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口唇部に沈縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2121	図版R-2	
117	肉棒		変形上文字、L R 筆文	丁寧なミガキ	透状口跡、口唇部に沈縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 J B-0470	図版R-2	
118	肉棒	細砂粒目立つ	上文字又、圓文	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-4191	図版R-2	
119	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、地文不明	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-4256	図版R-1		
120	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	ケズリ+ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2785	図版R-2	
121	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、地文不明	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0896	図版R-2	
122	肉棒	変形上文字(繩に残る)、地文不明	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I B-0648	図版R-2	
123	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	山野原に改縫(1巻)、山野原内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1265	図版R-1	
124	肉棒		平行沈縫文(1巻)、L R 筆文	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3548	図版R-1	
125	肉棒		変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3117	図版R-2	
126	肉棒		変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1806	図版R-2	
127	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、例文ミガキ	ミガキ	口唇部に改縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)、全体に摩滅が激しい	99 I A-4358	図版R-2	
128	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2405	図版R-2	
129	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、地文不明	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1217	図版R-1	
130	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0396	図版R-1	
131	肉棒	細砂粒目立つ	無文等(ナ)テ、平行沈縫文(4巻)、繩文	丁寧なミガキ	山野原に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3903	図版R-1	
132	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	山野原に改縫(1巻)、山野原内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1840	図版R-2	
133	肉棒		平行沈縫文(1巻)、L R 筆文	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3691	図版R-2	
134	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1320	図版R-1	
135	肉棒		変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)、黒色墨跡で光沢あり	99 I A-3581	図版R-1	
136	肉棒	キメ細かい	変形上文字(繩に残る)、地文不明	ミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1972	図版R-1	
137	肉棒	細砂粒目立つ	変形上文字、地文不明	ミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2498	図版R-1	
138	肉棒		変形上文字(繩に残る)、地文不明	ミガキ	透状口跡、口縁部に改縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2019	図版R-1	
139	筆		T文字、地文不明	ケズリ+ミガキ	山野原に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3818	図版R-1	
140	肉棒	キメ細かい	変形上文字、地文不明	ミガキ	透状口跡、山野原内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0669	図版R-1	
141	肉棒		夫照ノ文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3334	図版R-1	
142	肉棒		夫照ノ文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3032	図版R-1	
143	肉棒		夫照ノ文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、山野原に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3380	図版R-1	
144	肉棒	細砂粒目立つ	夫照ノ文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3404	図版R-2	
145	肉棒	キメ細かい	夫照ノ文字、地文不明	ケズリ+ミガキ	透状口跡、口縁部に改縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-4310	図版R-2	
146	肉棒		変形上文字、地文不明	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁部に改縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3186	図版R-1	
147	肉棒	細砂粒目立つ	平行沈縫文(4巻)、繩文	ミガキ	透状口跡、山野原内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2772	図版R-2	
148	肉棒	キメ細かい	変形上文字、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	山野原に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3189	図版R-1	
149	肉棒	細砂粒目立つ	平行沈縫文(4巻)、工字文、地文?, 部落に改縫(1巻)	ミガキ	山野原内側に平行沈縫文(1巻)、全体に摩滅が激しい	99 I A-2157	図版R-1	
150	肉棒	キメ細かい	無文等(ナ)テ、L R 筆文	丁寧なミガキ	透状口跡、山野原内側に平行沈縫文(1巻)	99 I B-0517	図版R-1	
151	肉棒	細砂粒目立つ	平行沈縫文(4巻)、H L 地文(繩文)	ミガキ	山野原に改縫(1巻)、山野原内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0166	図版R-2	
152	肉棒	細砂粒目立つ	工字文、L R 筆文(繩文)	丁寧なミガキ	透状口跡、透底部に改縫(1巻)、口縁部に改縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I B-0266	図版R-2	
153	肉棒		變形上文字(沈縫中に2箇所の突起)、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡、透底部に改縫(1巻)、口縁部に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0378	図版R-2	
164	肉棒	細砂粒目立つ	H 下字無(ナ)ミガキ(ナ)ミガキ	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0379	図版R-2	
155	肉棒		変形工字文、無文(ナ)ミガキ	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1742	図版R-2	
156	肉棒	キメ細かい	H 下字無(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3347	図版R-2	
157	肉棒	細砂粒目立つ	H 下字無(ナ)ミガキ(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-0451	図版R-2	
158	肉棒		H 下字無(ナ)ミガキ(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1652	図版R-2	
159	肉棒		H 下字無(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-1862	図版R-2	
160	肉棒	細砂粒目立つ	平行沈縫文(4巻)、H L 地文(繩文)	丁寧なミガキ	透状口跡、透底部に改縫(1巻)、口縁部に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2959	図版R-2	
161	肉棒	キメ細かい	平行沈縫文、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3045	図版R-2	
162	肉棒	細砂粒目立つ	透底工字文、無文(ナ)ミガキ	ミガキ	透状口跡、口縁内側に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3380	図版R-2	
163	肉棒	キメ細かい	無文(ナ)ミガキ	ミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)、円形の彌縫孔(1ヶ)	99 I A-3398	図版R-1	
164	肉棒	細砂粒目立つ	透底工字文、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)	99 I A-3985	図版R-1	
165	肉棒	キメ細かい	透底工字文、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2128	図版R-2	
166	肉棒	細砂粒目立つ	透底工字文、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡に平行沈縫文(1巻)	99 I A-2523	図版R-2	
167	肉棒		透底工字文?、無文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡に改縫(1巻)	99 I A-2500	図版R-2	
168	肉棒		透底工字文(ナ)ミガキ	丁寧なミガキ	透状口跡に改縫(1巻)、口縁部に平行沈縫文(2巻)、全体に摩滅が激しい	99 I A-2899	図版R-1	
169	肉棒	細砂粒目立つ	透底上文字(内部全面に改縫)	ミガキ	透状口跡に改縫(1巻)、口縁部に平行沈縫文(2巻)、全体に摩滅が激しい	99 I A-2899	図版R-1	
170	肉棒		H工字文、繩文	ミガキ	透状口跡、口縁部に改縫(1巻)、口縁内側に平行沈縫文(2巻)	99 I A-2890	図版R-2	
171	筆	L R 筆文	ケズリ	ミガキ	透状口跡、L R 筆文(繩文)	99 I A-2991	図版R-2	
172	筆	L R 筆文	ミガキ	透状口跡、L R 筆文(繩文)	99 I A-3373	図版R-2		
173	筆	L R 筆文(繩文)	ケズリ+ミガキ					

遺物番号	器種	施土	外観の非文様・地文等	内面調査	備考	監版番号	部版写真
174	鉢	粗砂粒目立つ	地文不明		摩滅が激しい。(ミニチュア上部か?)	991 A -0249	四版11-1
175	鉢		L.R.地文(標準)	ミガキ		001 A -2727	四版11-1
176	鉢	粗砂粒目立つ	L.R.地文	ケズリ+ミガキ		991 A -0094	四版11-2
177	鉢		L.R.地文	ケズリ+ミガキ		001 A -3298	四版11-2
178	鉢		L.R.地文	ミガキ		001 A -3428	四版11-2
179	鉢	粗砂粒目立つ	地文不明	粗いケズリ	摩滅が激しい	001 A -3582	四版11-1
180	鉢		L.R.地文	ケズリ+ミガキ		001 A -4237	四版11-1
181	浅鉢		L.R.地文(標準)	ケズリ+ミガキ		001 A -3260	四版11-2
182	鉢		L.R.地文(標準)に沈縫(1条)	ミガキ		991 A -0637	四版12
183	(鉢)鉢		鉢と底盤に沈縫(1条)	ケズリ+ミガキ		001 A -3241	四版11-1
184	鉢		L.R.地文(標準)に沈縫(1条)	ミガキ		001 A -4214	四版11-1
185	鉢	粗砂粒目立つ	L.R.地文(標準)に沈縫(1条)	ケズリ+ミガキ		001 A -2837	四版12
186	鉢	粗砂粒目立つ	鉢と底盤に沈縫(1条)	ミガキ		001 A -2933	四版11-1
187	鉢		鉢と底盤に沈縫(1条)	ケズリ+ミガキ		001 A -4078	四版11-1
188	鉢		L.R.地文(標準)に沈縫(1条)	ミガキ		001 A -3334	四版11-1
189	浅鉢		L.R.地文(標準)に沈縫(1条)	ミガキ		001 A -3236	四版11-2
190	浅鉢		鉢	丁寧なミガキ	内面の摩滅が激しい	001 A -2777	四版11-1
191	鉢	キメ細かい	無文(丁寧なミガキ), 施土に沈縫(1条)	丁寧なミガキ		001 A -3173	四版11-1
192	鉢		無文(丁寧なミガキ), 施土に沈縫(1条)	ケズリ		991 A -1323	四版11-1
193	(鉢)鉢	粗砂粒目立つ	丁寧な地文(標準)に沈縫(1条)	ミガキ	241-244-245と同じ施土であり、同一個体の可能性がある。	001 A -3241	四版11-1
194	鉢	粗砂粒目立つ	無文(ケズリ+ミガキ)	ミガキ		001 A -2589	四版12
195	鉢	キメ細かい	L.R.地文(標準), 施土に沈縫(1条)	ケズリ+ミガキ		001 A -3333	四版11-2
196	鉢		無文(丁寧なミガキ), 施土に沈縫(1条)	ケズリ+ミガキ		991 A -1376	四版11-1
197	鉢		無文(丁寧なミガキ), 施土に沈縫(1条)	丁寧なミガキ	内面に摩滅が付帯する。小型品	001 A -2994	四版11-1
198	浅鉢		無文(丁寧なミガキ), 施土に沈縫(1条)	丁寧なミガキ		001 A -3315	四版11-1
199	浅鉢		粗砂粒目立つ	ミガキ		001 A -3267	四版11-1
200	浅鉢		丁寧な地文(標準), 施土に沈縫(1条)	ケズリ+ミガキ		001 A -3563	四版11-2
201	鉢	キメ細かい	無文(ミガキ)	ミガキ	ミニチュア上部か?	001 A -3981	四版11-1
202	鉢	粗砂粒目立つ	無文(ミガキ)	ミガキ	内面に摩滅する	001 A -2986	四版11-2
203	浅鉢	キメ細かい	無文(丁寧なミガキ), 施土に沈縫(1条)	ミガキ		001 A -2964	四版11-1
204	(鉢)鉢	粗砂粒目立つ	無文(丁寧なミガキ)	ケズリ	圓形	991 A -2111	四版1-2
205	鉢		無文(丁寧なミガキ)+施土のケズリ+複数の丁寧なミガキ	ミガキ		001 A -2989	四版1-1
206	(鉢)鉢		丁寧なミガキ	ケズリ	圓形	991 A -1107	四版1-1
207	台付(鉢)		台脚無文(丁寧なミガキ), 口 L.R.地文(標準)	丁寧なミガキ		001 A -3466	四版12
208	台付(鉢)		台脚無文(丁寧なミガキ)	丁寧なミガキ		991 B -0124	四版12
209	台付(鉢)		無文	丁寧なミガキ		991 A -2561	四版12
210	台付(鉢)		L.R.地文(標準), 台脚無文(ミガキ)	丁寧なミガキ	摩滅が激しい	991 A -2065	四版12
211	台付(鉢)		L.R.地文(標準), 台脚無文(ミガキ)	丁寧なミガキ	摩滅が激しい	001 A -3369	四版12
212	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	台脚無文(丁寧なミガキ)	ミガキ	丁寧なミガキ	001 A -2970	四版12
213	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	台脚無文(丁寧なミガキ)	ミガキ	丁寧なミガキ	001 A -4247	四版12
214	台付(鉢)	キメ細かい	台脚無文(丁寧なミガキ)	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	991 A -2506	四版12
215	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	台脚無文(丁寧なミガキ)	ミガキ	丁寧なミガキ	001 A -3278	四版12
216	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	台脚無文(ミガキ)	ミガキ		001 A -3282	四版12
217	台付(鉢)		地文, 台脚無文(ミガキ)	ミガキ		001 A -2871	四版12
218	台付(鉢)		台脚無文(ミガキ)	ミガキ		991 A -2005	四版12
219	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	台脚無文(ミガキ)	ミガキ	内面に摩滅が激しい	991 A -0214	四版12
220	台付(鉢)		無文(ミガキ), 台脚無文(丁寧なミガキ), 平行沈縫(1条)	ミガキ		991 A -0336	四版12
221	台付(鉢)		台脚無文(ミガキ)	ミガキ		001 A -2959	四版12
222	台付(鉢)		台脚無文(ミガキ)	ミガキ		991 B -0199	四版12
223	台付(鉢)		無文(ミガキ), 台脚無文(ミガキ)	ミガキ		001 A -4150	四版12
224	台付(鉢)		台脚無文(ミガキ)	ミガキ		991 A -0482	四版12
225	台付(鉢)		平行沈縫(3条), 施土(ケズリ+ミガキ), 台脚無文(ミガキ)	ミガキ	兜形	991 A -1152	四版12
226	台付(鉢)	キメ細かい	平行沈縫(3条), 施土(ケズリ+ミガキ)	ミガキ	台脚の摩滅が激しい	001 A -2731	四版12
227	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	地文, 台脚無文(ミガキ)	ミガキ		001 A -3143	四版12
228	台付(鉢)		地文, 台脚無文(ミガキ)	ミガキ		001 A -3008	四版12
229	台付(鉢)	粗砂粒目立つ	地文, 台脚無文(ミガキ)	ケズリ		001 A -3335	四版12
230	■	粗砂粒目立つ	L.R.地文(標準文(2条), 台脚無文(ミガキ))	丁寧なミガキ	底部口輪, 口縁内側に沈縫(1条)	991 A -0895	四版10-2
231	■	粗砂粒目立つ	平行沈縫(2条), 台脚無文(ミガキ)	丁寧なミガキ	底状口輪, 施土に沈縫(1条)	991 A -0697	四版10-2
232	■	粗砂粒目立つ	L.R.地文(標準文(2条), 台脚無文(ミガキ))	丁寧なミガキ	口縁内側に沈縫(1条)	001 A -2557	四版10-2

遺物番号	種類	地土	外因の主文様・地文等	内面調査	備考	整理番号	図版写真
233	鉢	織紗粒目立つ	L R 横文(底走)	ケズリ		99 I A -0429	図版10-1
234	鉢	キメ細かい	矢羽状紋	ケズリ	赤褐色を呈す	99 I A -1322	図版10-2
235	鉢		矢羽状花繩	ミガキ	赤褐色を呈す	99 I A -0504	図版10-2
236	鉢	織紗粒目立つ	T字文?, 鮎文(丁寧なミガキ)	粗いケズリ		00 I A -2971	図版10-2
237	鉢	キメ細かい	矢羽状紋	ケズリ+ミガキ	赤褐色を呈す	99 I A -0305	図版10-2
238	鉢	織紗粒目立つ	工字文?	ミガキ	赤褐色を呈す	99 I B -0306	図版10-2
239	鉢			ミガキ	黒褐色で光沢あり	99 I A -0392	図版10-2
240	鉢		L R 横文(底走)	ケズリ+ミガキ		00 I A -3258	図版10-1
241	鉢	キメ細かい+	無文(ミガキ)	ケズリ?	漆膜が剥離し、赤褐色を呈す	00 I A -3427	図版10-2
242	鉢		平行比較文	ミガキ		00 I A -3436	図版10-2
243	鉢		無文(刷毛に丁寧なミガキ)	ナデ	底部の漆膜が剥離	99 I B -0275	図版4
244	鉢		無文(ミガキ)	ナデ	一火候による漆膜層が多段あり、赤褐色を呈す	00 I A -3356	図版10-1
245	鉢		無文(ミガキ)	ケズリ		99 I A -2148	図版10-1
246	土瓶	織紗粒目立つ	舟形文が左右対称に計4つ、貫通孔2ヶ所あり	赤色顔料が付着する		99 I A -0542	図版4
247	大型鉢		平行比較文	ミガキ	縫合状況、口縁内側に沈線(2条)、突起内側にも沈線(2条)	00 I A -2461	図版10-1
248	瓶	織紗粒目立つ	三角文、劍突	ミガキ		00 I A -2849	図版3
249	スプーン形	織紗粒目立つ		ミガキ	柄の部分のみ残存	00 I A -4280	図版10-2
250	漆桶		比較文	ミガキ	漆文刷毛(十巻内1式)	00 I A -4165	図版10-2
251	漆桶		舟文?	ミガキ	丁寧なミガキ	00 I A -2820	図版10-2
252	丸底鉢	織紗粒目立つ	L R 横文、興夷文	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	99 I A -0073	図版10-2
253	丸底鉢		丁字文	ミガキ	全体に厚膜が剥離し、169と同一體体の可能性あり	00 I A -2861	図版10-2
254	丸底鉢		平行比較文に刺夷文、興夷文	ミガキ	漆文刷毛(十巻内1式)	00 I A -0101	図版10-2

### 岩井・大沼遺跡 石器觀察表 (1)

遺物番号	種類	出土位置		形態	法量			石材(色)	備考	整理番号	図版写真			
		X	Y		全長(cm)	幅(横)(cm)	厚さ(cm)							
255	石匙	0.22	35.90	19.916	凸基軸部	3.60	2.16	1.26	0.24	1.40	地質頁岩(黒)	00 I A -2845	図版13-1	
256		-2.76	31.55	19.862	凸基軸部	(3.38) (1.93)	1.10	0.47	(1.40)	地質頁岩(褐灰)	基部に欠損。	99 I A -1448	図版13-1	
257		21.53	5.70	20.447	凸基軸部	(2.80) (2.16)	1.10	0.31	(0.60)	地質頁岩(灰白)	先端が欠損。	00 I B -0860	図版13-1	
258		-7.60	30.52	19.490	凸基軸部	2.59	1.91	0.86	0.37	0.80	地質頁岩(にぶい黄)	先端が欠損。	99 I A -1495	図版13-1
259		11.42	10.60	20.491	凸基軸部	(2.52) (1.54)	1.31	0.59	(1.40)	地質頁岩(黒)	先端が欠損。	99 I B -0135	図版13-1	
260		9.83	8.20	20.496	凸基軸部	(3.08) (1.95)	1.16	0.50	(1.20)	地質頁岩(褐黒)	先端が欠損。	99 I B -0080	図版13-1	
261		6.70	33.72	20.417	凸基軸部	3.02	2.00	1.38	0.50	1.40	地質頁岩(灰黒)	先端が欠損。	99 I A -1758	図版13-1
262		5.84	37.60	20.251	凸基軸部	2.41	1.43	1.33	0.36	1.00	地質頁岩(灰白)	先端が欠損。	99 I A -0553	図版13-1
263		1.90	34.52	19.736	凸基軸部	(2.35) (2.26)	1.57	0.39	(1.60)	地質頁岩(褐灰)	先端が欠損。	99 I A -0395	図版13-1	
264		0.33	30.08	19.906	凸基軸部	2.49	1.85	1.96	0.40	1.00	地質頁岩(灰オリーブ)	先端が欠損。	00 I A -2885	図版13-1
265		-0.78	29.33	19.863	凸基軸部	(2.38) (1.22)	1.62	0.69	(2.40)	地質頁岩(褐灰)	先端が欠損。	00 I A -3666	図版13-1	
266		-1.50	37.64	19.623	凸基軸部	(4.67) (0.55)	1.90	0.54	(3.40)	地質頁岩(黄灰)	先端が欠損。	99 I A -1245	図版13-1	
267		5.06	37.66	20.168	凸基軸部	3.84	2.94	1.36	0.40	1.60	地質頁岩(灰黒)	先端が欠損。	00 I A -2681	図版13-1
268		4.86	31.53	20.329	凸基軸部	3.35	2.10	1.30	0.38	1.20	地質頁岩(黒)	先端が欠損。	00 I A -3237	図版13-1
269		1.10	29.90	20.164	凸基軸部	(3.05)	—	(0.88)	0.37	(0.60)	地質頁岩(黒)	表面に欠損。	99 I A -2344	図版13-1
270		21.02	8.70	20.682	平基軸部	4.43	3.71	1.46	0.60	3.40	地質頁岩(灰黄黒)	先端が欠損。	99 I B -0323	図版13-1
271		21.28	8.38	20.588	平基軸部	(3.29) (2.30)	1.65	0.47	(2.40)	地質頁岩(灰黒)	先端が欠損。	00 I B -0758	図版13-1	
272		22.60	8.18	20.543	凸基軸部	(1.91) (1.14)	0.95	0.41	(0.80)	地質頁岩(オリーブ灰)	先端が欠損。	00 I B -0748	図版13-1	
273	尖頭錐	-0.14	34.80	19.811	—	4.43	2.85	2.78	0.60	7.40	地質頁岩(明海灰)	鋸切作中。	99 I A -0413	図版13-1

### 岩井・大沼遺跡 石器觀察表 (2)

遺物番号	種類	出土位置		形態	法量			石材(色)	備考	整理番号	図版写真		
		X	Y		幅(cm)	横(cm)	厚さ(cm)						
274	石匙	0.97	38.04	19.820	彫刻	8.45	4.78	1.20	29.2	地質頁岩(黒)	最辺に刃部向斜彫刻で、短辺に片面彫刻。一辺に欠損あり。	00 I A -4261	図版13-2
275		3.77	14.65	20.383	彫刻	6.25	7.80	1.74	61.6	地質頁岩(灰黒)	先端が欠損。	99 I A -0410	図版13-2
276		4.86	31.99	20.304	彫刻	6.63	9.88	1.64	78.4	玉砂(灰)	表面に欠損。	00 I A -3206	図版13-2
277		-0.76	7.64	20.403	(彫刻)	(3.15)	1.20	0.93	(7.00)	地質頁岩(灰黒)	つまみ部だけ残存。	00 I B -0662	図版13-2
278	スクリュー	-1.20	34.16	19.718	—	(4.43)	3.76	1.06	(18.4)	地質頁岩(黒)	彫刻削片が半分に欠損か。両側面には刃部向斜彫及び片面彫刻。	99 I A -0187	図版13-2
279		-0.60	36.20	19.923	—	3.95	6.25	7.70	21.2	地質頁岩(黒)	彫刻削片。先が鋭角に尖った。辺には刃部向斜彫。	99 I B -0590	図版13-2
280		10.43	10.10	20.487	—	(4.12)	3.94	9.40	(17.8)	地質頁岩(黒)	刃部彫には刃部向斜彫。	99 I B -0590	図版13-2

遺物番号	種類	出土地點		形態	寸法			石 材(色)	備 考	整理番号	図版写真	
		X	Y 標高(m)		幅(cm)	横(cm)	厚さ(cm)					
281	スクリュー	16.02	12.15	20.861	—	(3.85)	(2.90)	0.80	(5.63) 質地青白(黒鉛)	表面剥片が欠損か、先が鋸角に向った二辺には万字内面網目。	99 I-B-0242	図版15-2
282	6.28	33.10	20.426	—	2.65	2.67	0.70	6.0	地質青白(黄鉄)	側面には刃端面網目。	99 I-A-1743	図版15-2
283	磨製石斧	-3.52	34.05	19.403	—	(4.33)	(5.56)	(1.73)	(46.85) 質地オリーブ(灰)	鋸刃、刀刃のみ残存。全刃に削磨されている。	99 I-A-1370	図版15-2
284	23.06	4.44	20.202	—	(3.57)	(2.20)	(1.42)	(13.6) 緑色地黒鉛斑(黒鉛鉄)	基部のみ残存。全刃に削磨されている。	99 I-B-0343	図版15-2	
285	自然石片	4.45	36.64	20.161	—	3.66	2.84	1.16	15.8 質地(灰)	往6~10mmの自然孔	00 I-A-3620	図版15-2
286	-1.25	34.02	19.553	—	3.68	2.75	1.90	19.2 質地(にじり灰)	往4mmの自然孔	99 I-A-0387	図版15-2	
287	礫石	11.84	9.05	20.518	肉厚・梢円形	(8.92)	(7.15)	3.20	262.4 質地(灰)	両面に強い敲打痕。半分に欠損。	99 I-B-0164	図版14-1
288	1.78	40.84	19.961	肉厚・梢円形	11.10	8.50	4.60	60.0 質地(赤鉄)	両面削平・両側縁に敲き跡。両面に擦痕。	99 I-A-0226	図版14-1	
289	2.30	32.56	20.091	肉厚・梢円形	9.05	6.73	3.25	207.0 質地(緑風)	両端部・両側縁に敲き跡。両面に擦痕+擦痕。	99 I-A-3070	図版14-1	
290	3.62	35.44	19.966	肉厚・梢円形	10.80	8.30	3.20	431.8 流紋岩(暗斜長)	両面に擦痕+擦痕。	00 I-A-3864	図版14-1	
291	5.06	37.66	20.270	肉厚・梢円形	(8.02)	5.50	(3.85)	(38.0) 流紋岩(暗斜長)	瘤部・側面縁に敲き痕。両面に擦痕+擦痕。半分に欠損。剥離層多数アリ。	00 I-A-2680	図版14-1	
292	0.10	40.96	19.700	肉厚・梢円形	9.45	8.86	3.80	366.2 質地(にじり灰)	両端部に擦痕。両側縁に強い擦痕。両面に擦痕+擦痕。石盤の可能性もあり。	99 I-A-0602	図版14-1	
293	1.10	38.96	19.958	肉厚・やや楕円形	9.18	7.45	4.22	471.2 質地(暗風)	側縁に擦痕。両面に擦痕。	99 I-A-1088	図版14-2	
294	1.86	34.42	21.182	肉厚・やや楕円形	7.64	(6.62)	3.34	(24.5) 流紋岩(灰)	両端部に擦痕。両面に擦痕。	99 I-A-0392	図版14-2	
295	2.90	41.25	20.061	肉厚・梢円形	10.50	8.20	3.40	432.6 質地(オリーブ灰)	両端部に擦痕。両面に擦痕。	99 I-A-0228	図版14-2	
296	3.65	35.36	19.814	肉厚・梢円形	8.87	6.68	4.10	398.4 流紋岩(暗斜長)	両端部・両側縁に擦痕。両面に擦痕+擦痕。石盤の可能性もあり。	00 I-A-4059	図版14-2	
297	31.67	10.83	21.261	肉厚・梢円形	(10.70)	(5.30)	4.80	(379.6) 質地(にじり灰)	両端部・側縁に擦痕。両面に擦痕+擦痕。	99 I-B-0375	図版14-2	
298	29.76	9.36	20.906	肉厚・梢円形	(9.40)	5.85	2.98	(414.8) 質地(オリーブ灰)	両面に擦痕+擦痕。	99 I-B-0383	図版14-2	

### 堀井・大沼遺跡 石器觀察表 (3)

遺物番号	種類	出土地點		形態	寸法			石 材(色)	備 考	整理番号	図版写真	
		X	Y 標高(m)		幅(cm)	横(cm)	厚さ(cm)					
299	磨石	22.90	4.78	20.455	扁平・具柄円	9.80	2.60	0.95	81.4 質地(オリーブ灰)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。両面に擦き痕。	99 I-B-0342	図版15-1
300	5.18	32.04	20.351	扁平・具柄円	8.59	2.80	1.34	65.4 質地(暗青灰)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。両面に擦痕。	00 I-A-3212	図版15-1	
301	-0.90	30.47	19.960	扁平・具柄円	9.20	3.50	1.80	96.5 質地(暗青灰)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。両面に擦痕。	00 I-A-3093	図版15-1	
302	2.44	29.88	20.233	扁平・具柄円	7.37	3.13	1.13	49.5 質地(暗青)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。両面に擦痕。	00 I-A-3346	図版15-1	
303	20.42	3.98	20.237	扁平・具柄円	7.94	3.40	1.00	54.4 質地(暗青)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。両面に擦痕。	99 I-B-0518	図版15-1	
304	22.38	8.34	20.687	扁平・具柄円	7.55	3.64	1.30	76.0 質地(緑風)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。	99 I-B-0335	図版15-1	
305	4.84	30.84	20.332	扁平・具柄円	7.50	2.60	0.94	57.5 質地(緑風)	端部に擦痕、両面に擦き痕。	00 I-A-3246	図版15-1	
306	-1.56	35.08	19.740	扁平・具柄円	7.22	4.06	0.51	54.4 質地(オリーブ灰)	端部に擦痕、両面に擦き痕。	99 I-A-0420	図版15-1	
307	31.10	9.40	21.155	扁平・具柄円	6.78	4.12	1.19	49.5 質地(オリーブ灰)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。片面に擦き痕。	99 I-B-0386	図版15-1	
308	2.85	40.94	20.017	扁平・具柄円	7.26	3.24	1.20	44.4 質地(緑風)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。片面に擦き痕。	99 I-B-0612	図版15-1	
309	-1.32	28.20	20.038	扁平・具柄円	6.17	3.29	0.59	62.5 質地(緑風)	端部に擦痕、側縁に擦き痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3558	図版15-1	
310	22.66	6.60	20.538	扁平・具柄円	9.72	2.87	1.97	70.0 質地(緑風)	端部に擦痕、片面に擦き痕。	00 I-B-0790	図版15-1	
311	-5.26	31.02	19.385	扁平・具柄円	5.64	1.94	0.75	17.2 質地(緑風)	端部に擦痕。	00 I-A-4159	図版15-1	
312	-0.44	30.15	20.010	扁平・具柄円	5.84	3.40	0.98	38.0 質地(暗青)	端部に擦痕。剥離層2アリ。	00 I-A-3463	図版15-1	
313	1.30	28.90	20.146	扁平・具柄円	5.72	3.65	0.70	45.4 質地(暗オリーブ灰)	両端部に擦痕、両面に擦き痕。	00 I-A-3463	図版15-1	
314	2.60	39.06	20.143	扁平・具柄円	6.40	3.35	1.14	38.8 質地(暗青)	両端部に擦痕、側縁に擦痕。片面に擦き痕。	99 I-A-1036	図版15-1	
315	0.28	29.57	20.059	扁平・具柄円	6.72	5.21	1.34	70.8 質地(灰)	両端部に擦痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3443	図版15-1	
316	9.13	8.38	20.539	扁平・具柄円	6.67	3.25	1.06	36.0 質地(灰)	両端部に擦痕。片面に擦き痕。剥離層1アリ。	99 I-B-0437	図版15-2	
317	1.86	30.86	20.184	扁平・具柄円	7.54	3.55	1.36	55.4 質地(暗斜長)	端部に擦痕。両側縁に擦き痕。	00 I-A-3114	図版15-2	
318	-2.20	35.30	19.624	扁平・具柄円	7.80	4.38	1.20	65.4 質地(灰)	端部に擦痕。	00 I-A-2974	図版15-2	
319	5.40	33.38	20.316	扁平・具柄円	7.20	3.99	1.11	48.0 質地(灰)	端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3169	図版15-2	
320	4.20	30.30	20.322	扁平・具柄円	8.60	3.48	1.68	72.0 質地(灰)	側縁に擦痕。	00 I-A-3075	図版15-2	
321	-4.90	29.85	19.525	扁平・具柄円	8.98	3.70	1.25	69.0 質地(灰)	側縁に擦痕。	00 I-A-4034	図版15-2	
322	-	-	-	扁平・具柄円	8.66	4.40	1.66	89.5 質地(オリーブ灰)	端部に弱い擦痕。両面に擦き痕。	I-B-金子	図版15-2	
323	0.28	29.56	20.059	扁平・具柄円	5.43	4.37	1.23	46.4 質地(灰)	両端部に擦痕。側縁に擦き痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3442	図版15-2	
324	-1.04	34.54	19.735	扁平・具柄円	6.04	3.23	0.89	25.0 質地(灰)	端部に擦痕。	00 I-A-0446	図版15-2	
325	5.94	31.46	20.275	扁平・具柄円	(4.91)	3.43	1.08	(24.8) 質地(暗青)	端部に擦痕。側縁に擦き痕。片面に擦き痕。半分に欠損。	00 I-A-2923	図版15-2	
326	0.48	30.15	20.093	扁平・具柄円	6.41	2.85	1.04	32.4 質地(オリーブ灰)	端部に擦痕。側縁に擦き痕。両面に擦痕。	00 I-A-3414	図版15-2	
327	4.26	1.17	20.319	扁平・具柄円	6.17	2.75	1.02	24.4 質地(暗青)	両端部に擦痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3289	図版15-2	
328	-0.22	29.70	20.083	神狀・具柄円	7.27	2.58	1.65	41.4 質地(緑風)	端部に擦痕。	00 I-A-3434	図版15-2	
329	11.90	10.68	20.491	神狀・具柄円	7.05	4.49	1.11	55.4 質地(緑風)	端部に擦痕。	00 I-B-0490	図版15-2	
330	-3.00	35.03	19.474	神狀・具柄円	8.18	3.91	1.74	76.6 質地(灰)	端部に弱い擦痕。	00 I-A-2869	図版15-2	
331	0.76	38.42	19.804	神狀・具柄円	5.70	3.32	0.49	(15.0) 質地(オリーブ灰)	端部に擦痕。片面に擦き痕。半分に欠損。	00 I-A-2767	図版15-2	
332	6.97	33.84	20.439	神狀・具柄円	6.35	3.80	1.06	(40.0) 質地(灰)	端部に擦痕。片面に擦き痕。	00 I-A-1684	図版15-2	

遺物番号	種類	出土位置			法 番			石 材(色)	備 考	整理番号	図版写真	
		X	Y	標高(m)	幅(cm)	横(cm)	厚さ(cm)					
333	磨石	5.96	31.28	20.302	扁平・長楕円	6.76	3.30	0.95	35.8 安山岩(灰)	端部に擦痕。	00 I-A-3191	図版16-2
334		5.80	31.14	20.311		6.70	3.65	1.26	49.2 安山岩(暗青灰)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3851	図版15-2
335		2.83	31.44	20.190		6.96	3.79	0.90	(39.3) 真理(青)	端部に擦痕。側縁に擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3313	図版15-2
336		-2.76	34.54	19.548		6.34	3.10	0.74	25.0 真理(暗緑)	両端部に擦痕。側縁に擦き痕+擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-2963	図版15-2
337		0.49	28.36	20.154		7.75	2.98	0.95	36.6 真理(にいし黄)	端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3472	図版16-1
338		-0.44	30.15	20.020		8.20	4.25	1.09	67.5 真理(暗緑灰)	両端部に擦痕。両側縁に擦き痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3425	図版16-1
339		-0.22	29.70	20.083		(8.71)	5.26	1.70	(28.6) 真理(灰)	端部に擦痕。全体が平滑。	00 I-A-3436	図版16-1
340		-1.66	35.08	20.740		8.76	4.05	1.46	79.8 真理(灰)	片面に擦き痕。	00 I-A-0418	図版16-1
341		-0.22	18.60	20.241		9.27	4.70	1.47	107.2 流紋岩(灰)	端部に擦痕。側縁に擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-B-0713	図版16-1
342		-0.70	49.98	20.980		9.46	4.25	1.98	99.4 真理(暗青)	端部に擦痕。側縁に擦痕。片面に擦き痕。	00 I-A-4275	図版16-1
343		1.38	29.60	19.980		9.27	2.91	0.78	26.8 真理(オリーブ)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3544	図版16-1
344		-1.14	8.90	20.516	扁平・椭円	6.98	5.53	1.54	(50.0) 真理(にいし黄)	側縁に擦痕。表端部4アリ。	00 I-B-0665	図版16-1
345		3.65	38.68	20.184	扁平・長楕円	7.90	4.70	1.25	71.8 真理(灰)	端部に擦痕。側縁に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-0832	図版16-1
346		2.76	30.80	20.201		7.89	4.00	1.59	68.2 真理(灰)	端部に擦痕。側縁に擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3322	図版16-1
347		2.14	38.06	20.030		7.75	4.74	1.65	98.0 真理(灰)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3569	図版16-1
348		0.34	34.67	19.766		8.70	4.14	1.13	71.4 真理(灰)	端部に擦痕。両端縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-2827	図版16-1
349		-4.98	31.37	19.510		6.75	2.72	0.73	27.2 真理(オリーブ灰)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3786	図版16-1
350		1.23	28.46	20.185		5.81	2.95	1.18	32.8 真理(にいし黄)	両端部に擦痕。側縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3459	図版16-1
351		2.50	34.95	20.402		6.55	2.51	0.92	28.0 真理(オリーブ)	端部に擦痕。	00 I-A-0260	図版16-1
352		21.62	5.70	20.356		6.17	2.63	0.99	25.5 真理(灰)	端部に擦痕。	00 I-B-0863	図版16-1
353		0.16	29.20	20.140		5.71	2.55	0.87	21.8 真理(オリーブ)	両端部に擦痕。	00 I-A-3448	図版16-1
354		-0.04	38.48	19.730		5.70	3.05	0.89	23.8 真理(オリーブ)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-4274	図版16-1
355		-2.70	33.70	19.465		5.69	2.86	0.62	14.0 真理(灰)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3794	図版16-1
356		5.44	32.38	20.349	扁平・椭円	4.93	3.21	0.65	18.4 真理(黄)	両端部に擦痕。側縁に擦痕+擦き痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3179	図版16-1
357		4.64	30.84	20.333	扁平・長楕円	7.24	2.18	0.65	32.0 真理(黄)	両端部に擦痕。側縁に擦痕+擦き痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3249	図版16-2
358		5.34	31.43	20.371		8.03	3.24	1.22	52.0 真理(にいし黄)	両端部に擦痕。側縁に擦痕+擦き痕。片面に擦き痕。	00 I-A-3223	図版16-2
359		5.18	32.04	20.363		(7.93)	3.19	1.00	(41.0) 真理(明赤)	端部に擦痕。片面に擦痕+擦き痕。	00 I-A-3218	図版16-2
360		-5.20	32.34	19.113		7.16	3.05	1.16	40.0 真理(灰)	端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-4146	図版16-2
361		2.08	39.00	19.874		7.88	3.28	1.30	54.4 真理(青)	両端部に擦痕。片面に擦き痕。	00 I-A-2734	図版16-2
362		2.83	31.44	20.273		8.97	3.50	0.93	44.4 真理(灰)	端部に擦痕。	00 I-A-3312	図版16-2
363		0.68	19.10	20.298		(7.98)	3.80	1.58	(76.6) 安山岩(赤)	端部に擦痕及び剥離痕アリ。片面に擦き痕。	00 I-B-0715	図版16-2
364		-2.38	34.58	19.582		(9.49)	3.87	1.27	(65.6) 安山岩(赤)	端部に擦痕。側縁に擦痕。	00 I-A-2985	図版16-2
365		-0.50	35.48	19.836		6.90	3.45	1.25	44.0 真理(黄)	両端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-2931	図版16-2
366		20.68	5.58	20.444		7.55	3.45	1.08	47.8 真理(灰)	端部に擦痕。	00 I-B-0261	図版16-2
367		22.22	4.70	20.400		7.18	3.18	1.06	40.8 真理(灰)	端部に擦痕。片面に擦き痕。	00 I-B-0274	図版16-2
368		2.28	36.82	20.128		7.75	3.68	1.27	60.2 真理(にいし黄)	端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-1042	図版16-2
369		2.99	28.78	20.226		7.38	3.09	1.20	46.1 真理(灰)	端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3391	図版16-2
370		2.15	31.18	20.581		7.18	3.61	1.22	55.2 真理(灰)	両端部に擦痕。両側縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-B-0797	図版16-2
371		0.35	30.37	20.083		6.65	3.91	1.03	47.9 安山岩(赤)	端部に擦痕。両側縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3411	図版16-2
372		32.90	9.84	21.077		7.52	3.13	1.10	47.9 真理(灰)	両面に擦痕。	00 I-B-0391	図版16-2
373		6.69	31.35	20.297		6.48	3.12	1.08	36.0 真理(灰)	両端部に擦痕。両側縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3623	図版16-2
374		-0.09	35.25	19.864		6.99	3.36	1.03	40.4 真理(灰)	端部に擦痕。両面に擦き痕。	00 I-A-2897	図版16-2
375		-0.14	7.26	20.398		7.25	3.64	1.19	51.4 真理(黄)	両端部に擦痕。両側縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-B-0663	図版16-2
376		0.85	32.66	20.283	扁平・椭円	6.00	3.82	0.86	36.3 真理(灰)	両端部に擦痕。	00 I-A-3157	図版16-2
377		4.84	30.84	20.332		6.37	4.71	1.32	66.5 真理(にいし黄)	両端部に擦痕。両側縁に擦痕+擦き痕。両面に擦き痕。	00 I-A-3248	図版16-2
378		-0.25	29.70	20.083	扁平・長楕円	7.00	4.34	1.23	54.2 水目(にいし黄)	端部に擦痕。側縁に擦痕。	00 I-A-3437	図版16-2
379		2.48	30.54	20.177	扁平・椭円	6.24	5.20	1.30	71.6 水目(にいし黄)	端部に擦痕。両側縁に擦痕。	00 I-A-3329	図版16-2

岩井・大沼遺跡 石器鍛造表(4)

遺物番号	種類	出土位置			法 番			石 材(色)	備 考	整理番号	図版写真		
		X	Y	標高(m)	幅(cm)	横(cm)	厚さ(cm)						
380	石器	1.10	39.6	19.864	—	2.45	1.68	1.6	0.58	2.0 黒曜石(黒)	気泡多い。出来島産のものか。	00 I-A-2776	巻角四版
381	石器	—	—	—	—	2.96	0.97	0.6	1.6 黒曜石(黒)	出来島産以外のものか。	00 I-A-2961	巻角四版	

**写真図版**



1. I-A地区 調査風景(北東から)



2. I-A地区 調査風景(南から)



3. I-A地区 遺物検出状況(東から)



4. I-A地区 遺物検出状況(南から)



5. I-A地区 調査区全景(北東から)



6. I-A地区 東壁セクション(西から)



7. I-A地区 西壁セクション(北東から)



8. I-A地区 北壁セクション(南から)



1. I-A地区東半 遺物出土状況(南から)



2. I-A地区東半 遺物出土状況(西から)



3. I-A地区西半 遺物出土状況(北から)



4. I-A地区東半 遺物出土状況(北から)



5. I-A地区 深鉢一括(遺物No.1)(東から)



6. I-A地区 鉢(遺物No.247)



7. I-A地区 土版(遺物No.246)(東から)



8. I-A地区 倒木痕 2(西から)



85



226



248



12



1



38



148



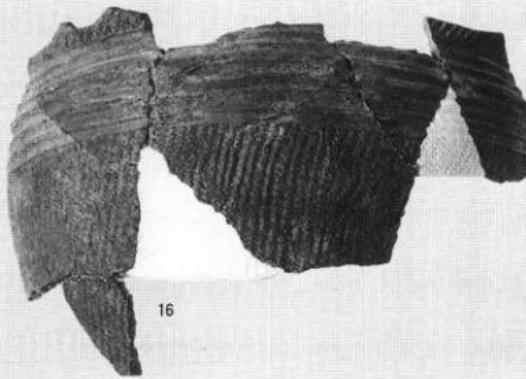
246



86



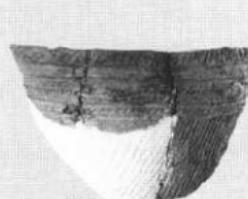
243



16



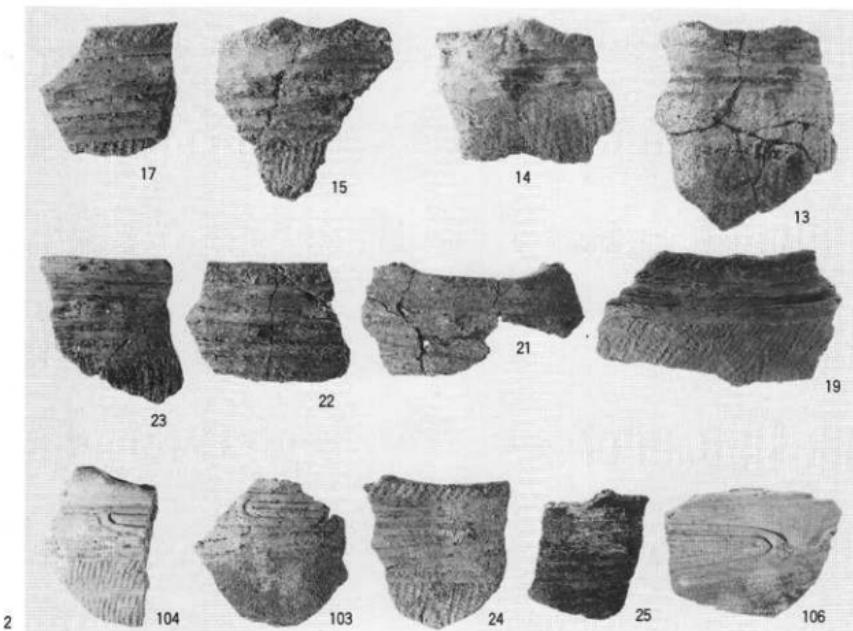
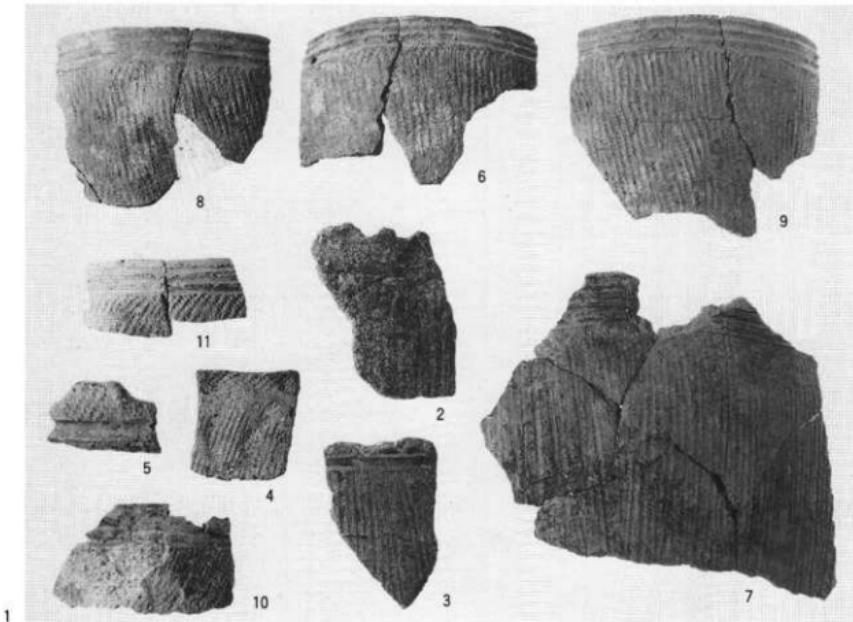
39

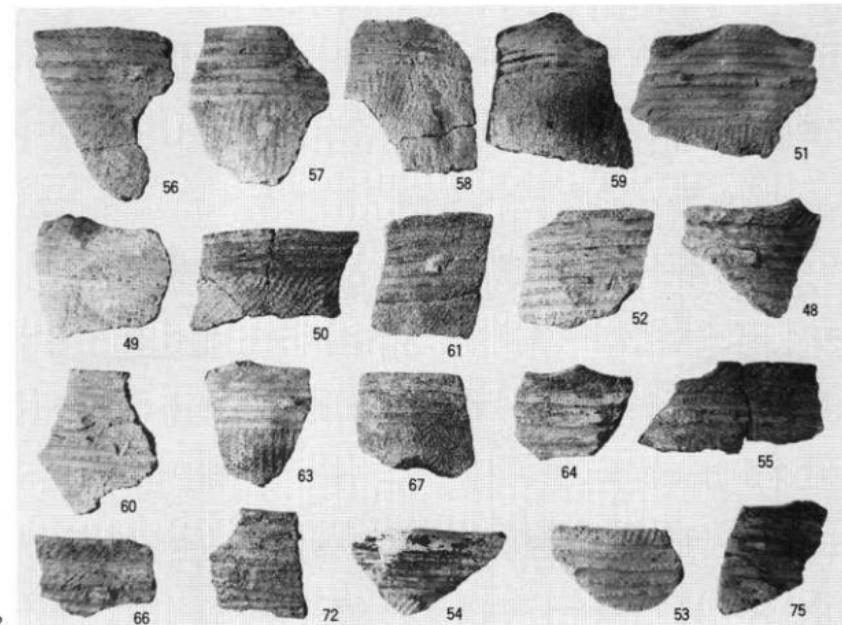
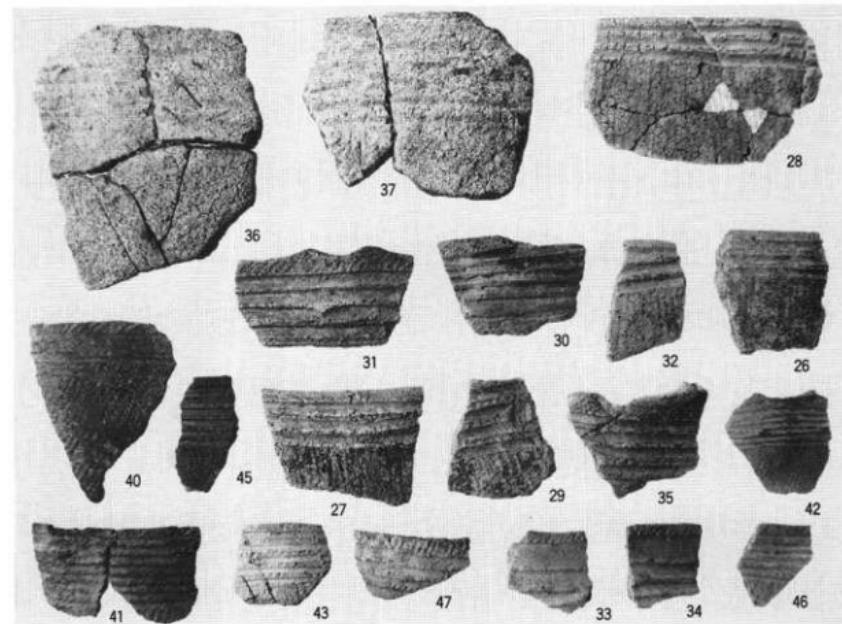


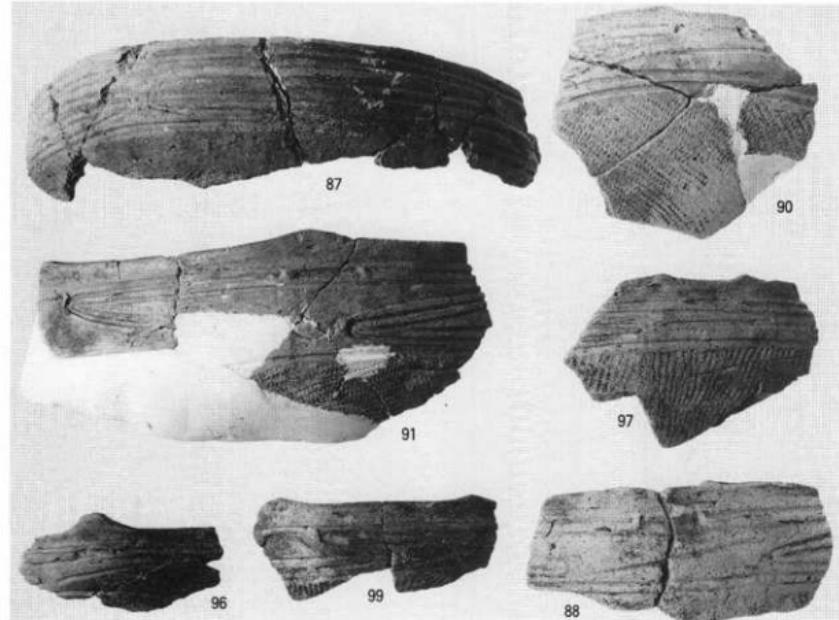
44



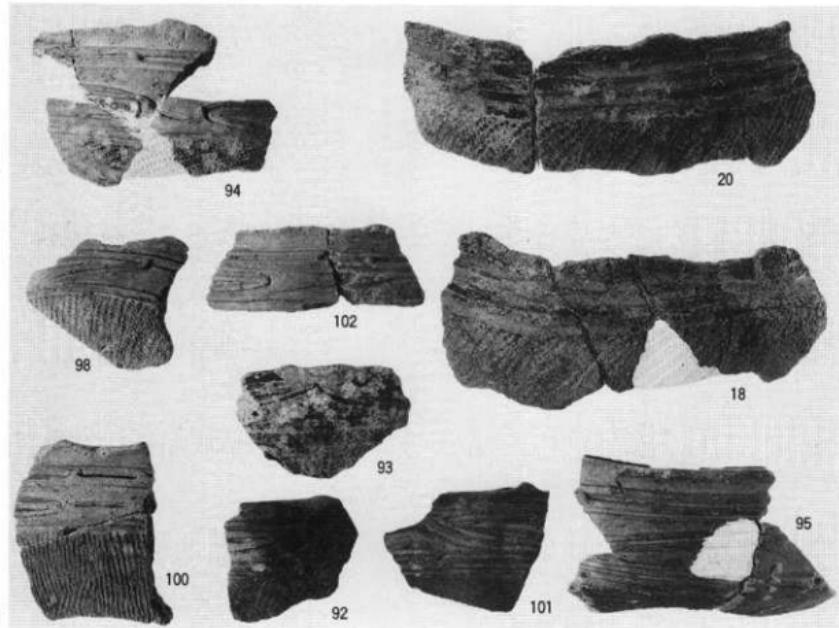
89



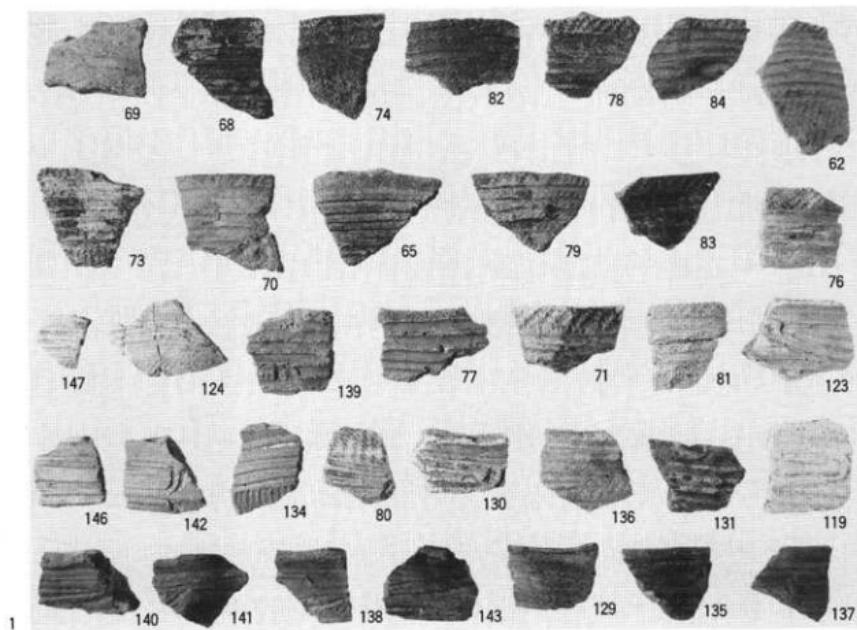




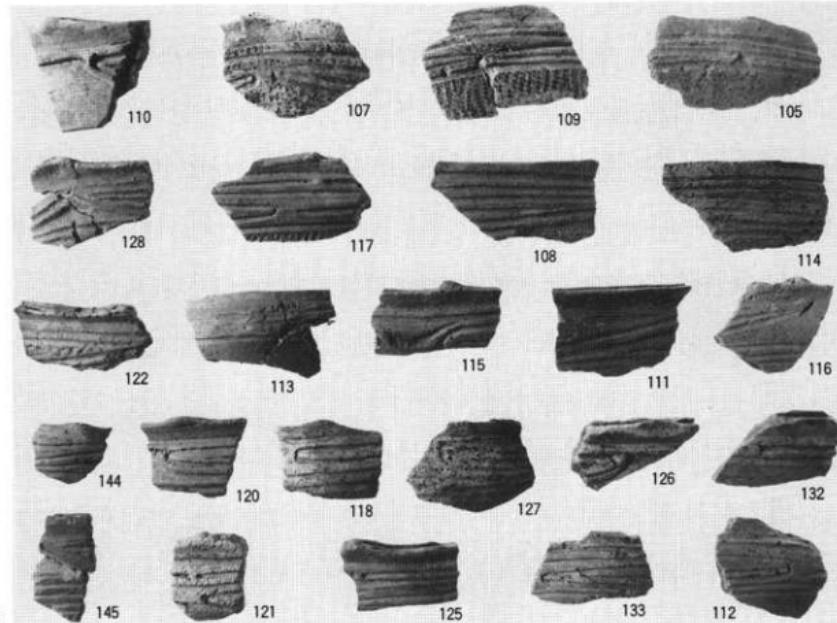
1



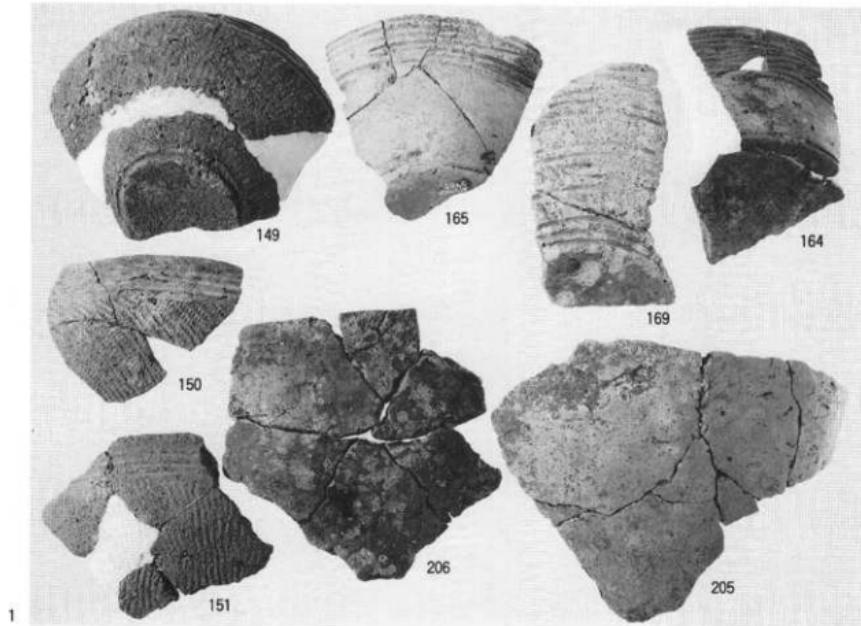
2



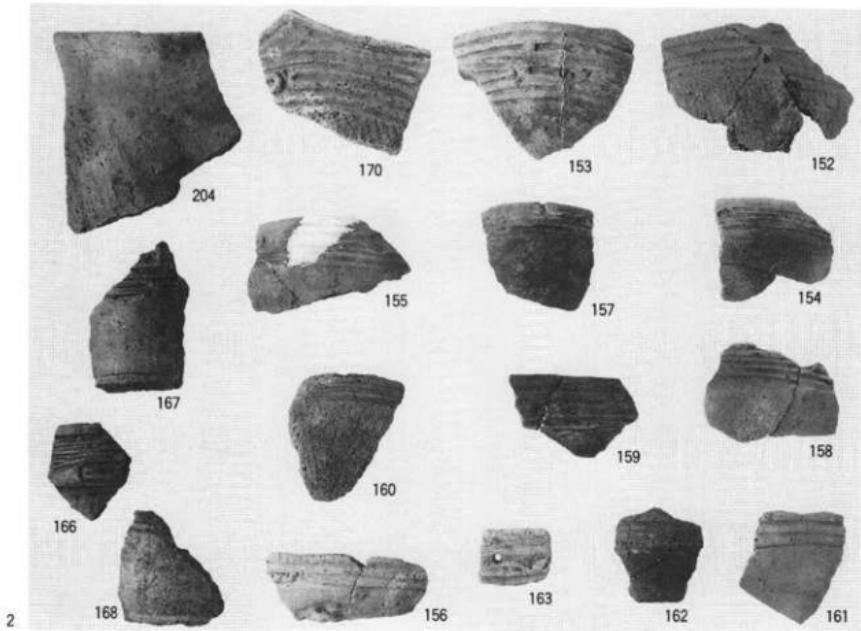
1



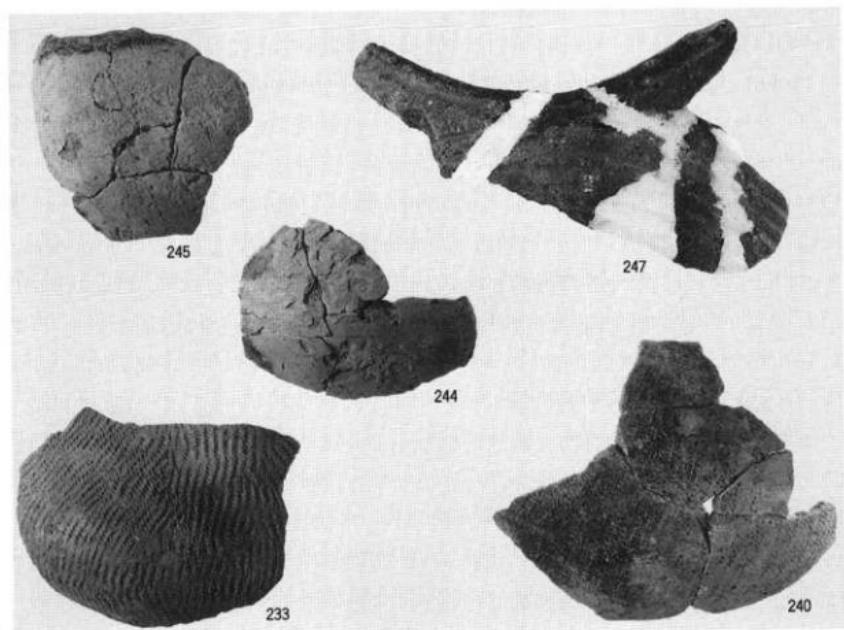
2



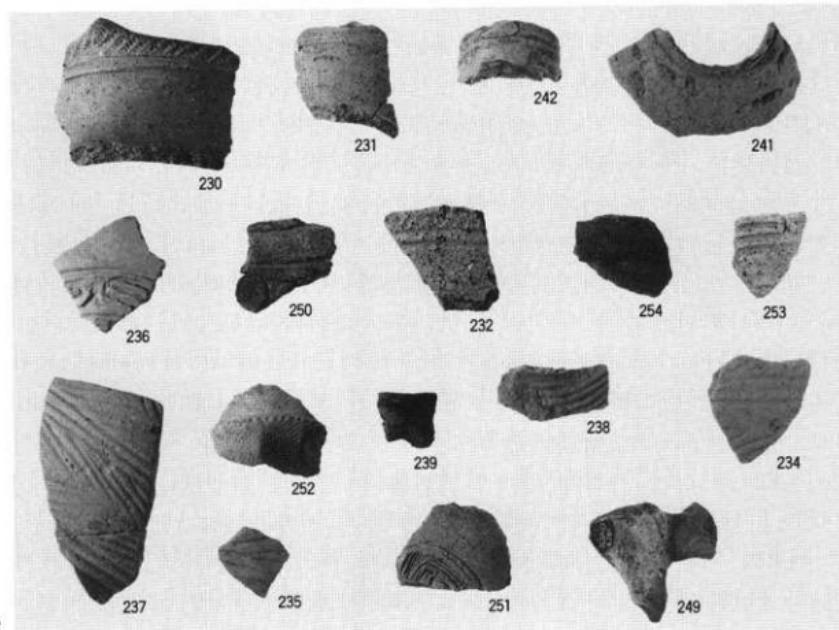
1



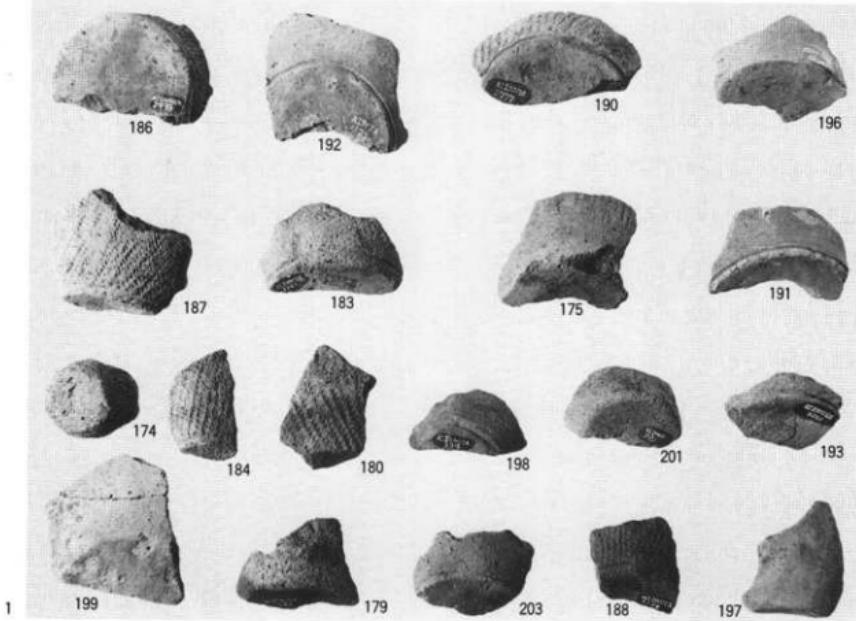
2



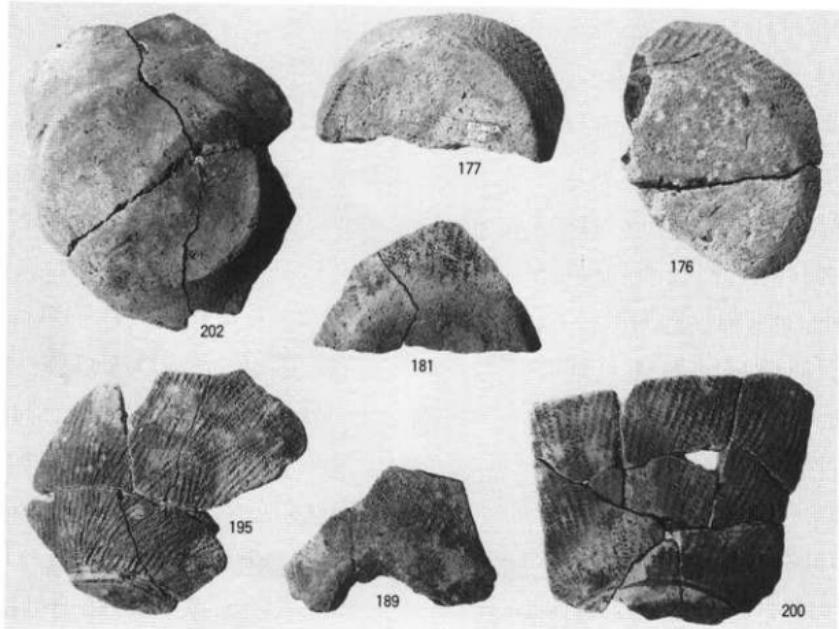
1



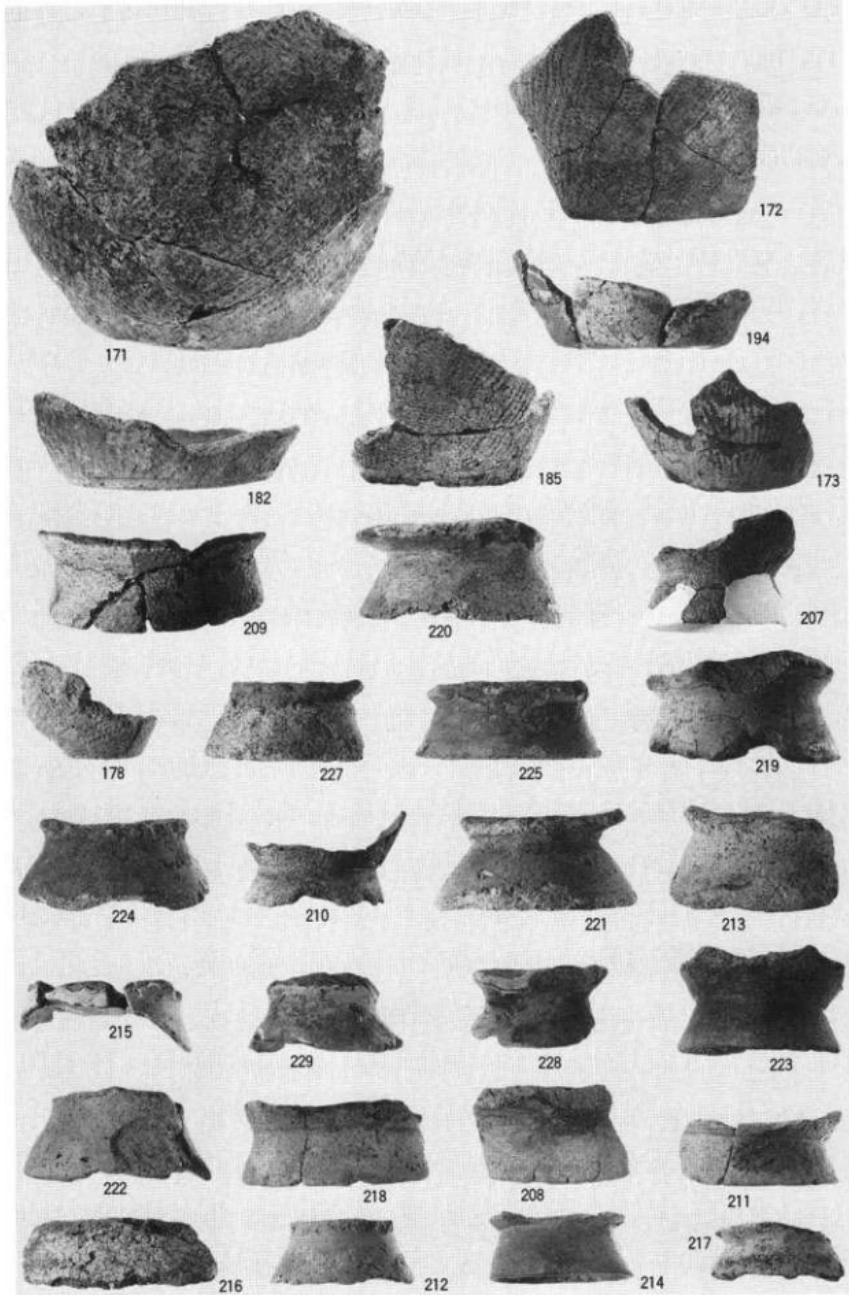
2

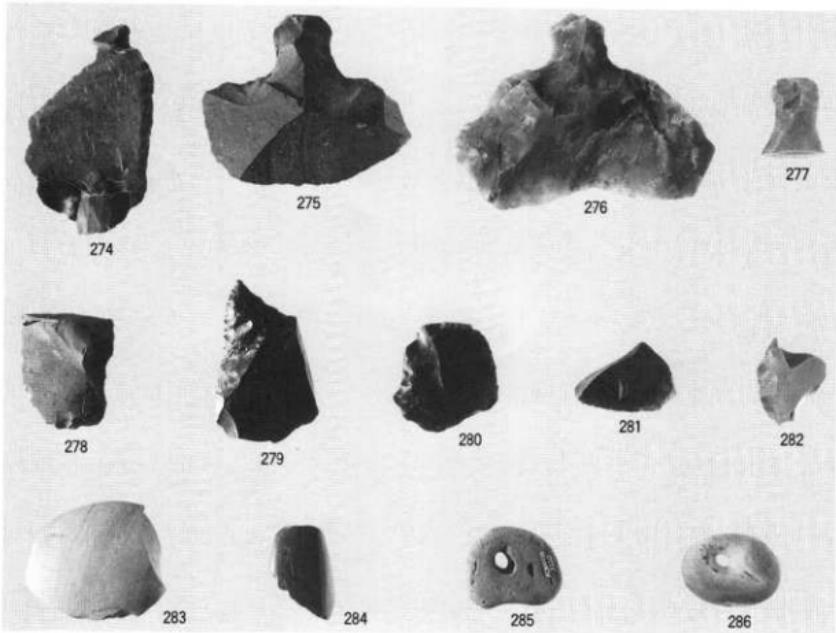
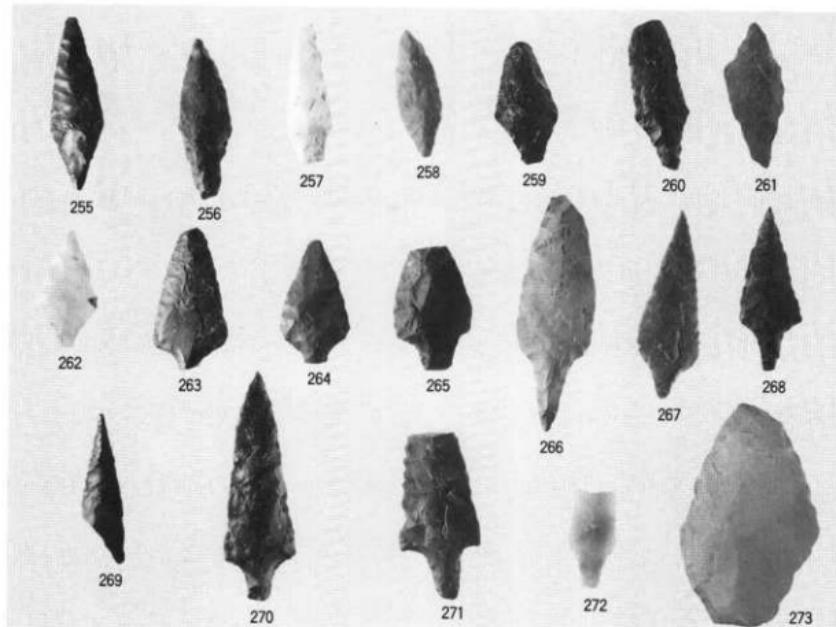


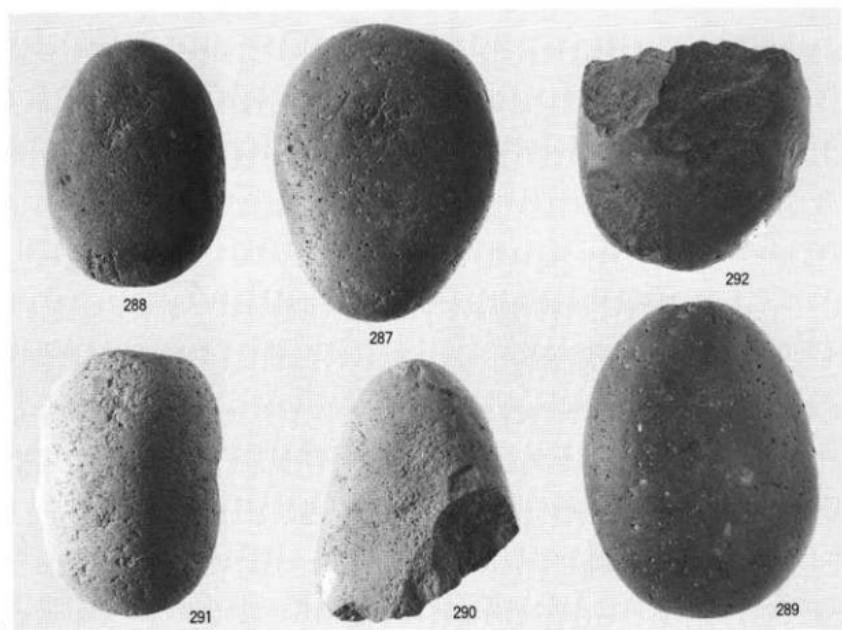
1



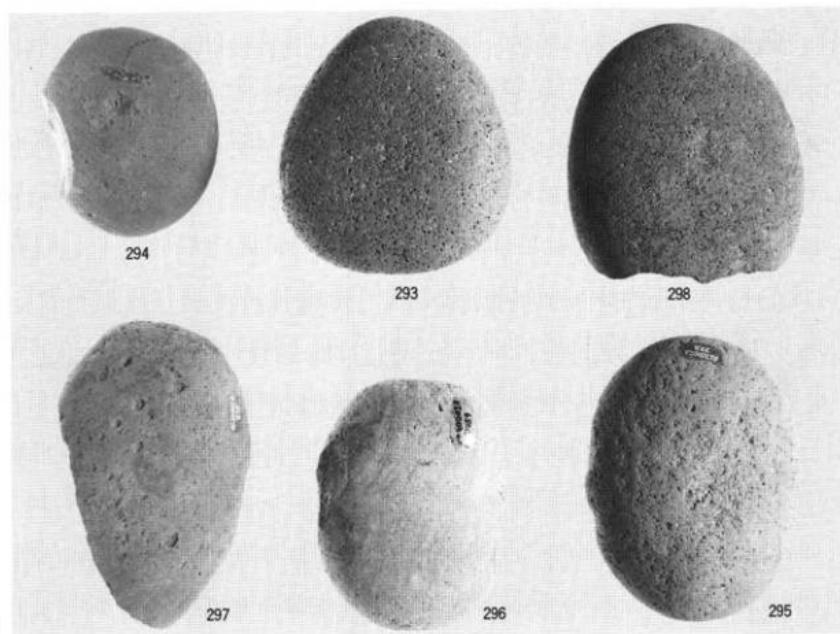
2



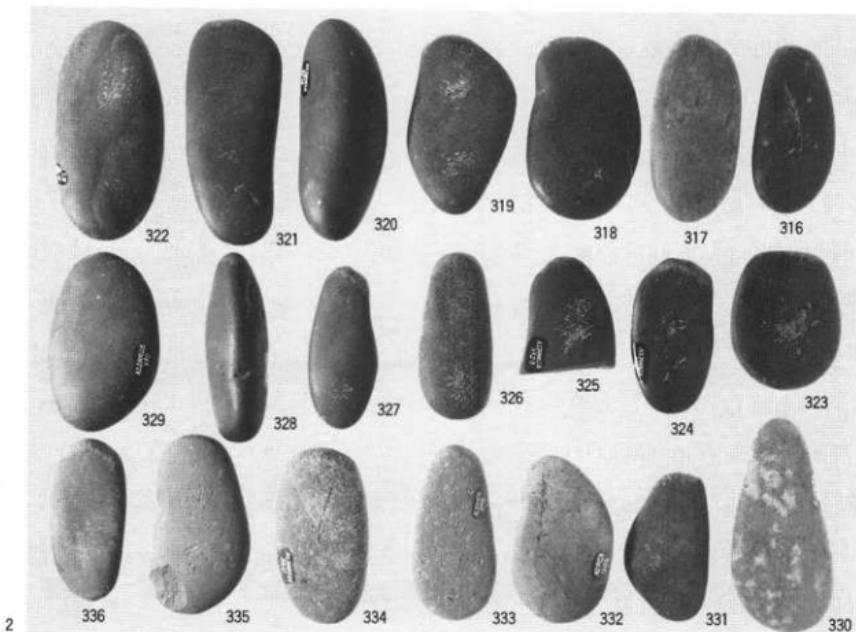
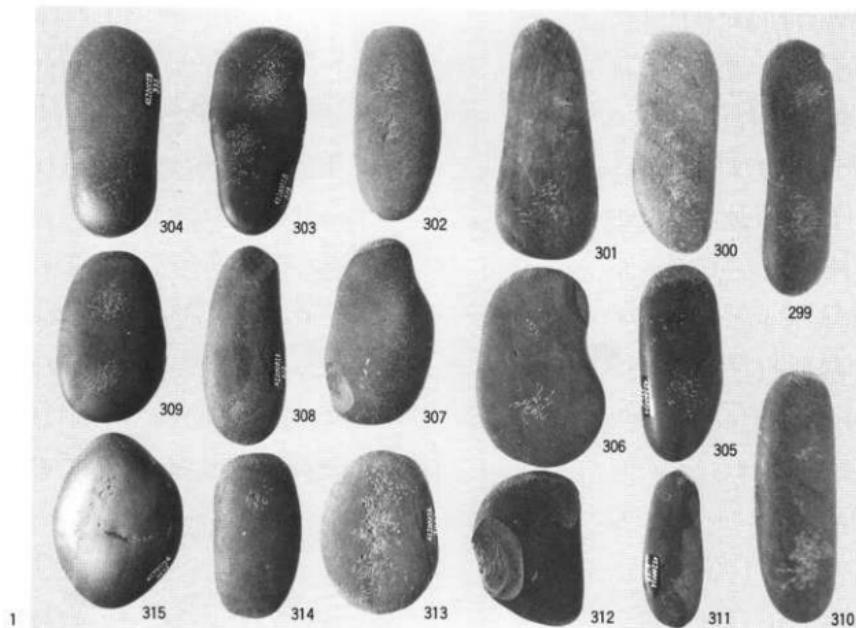


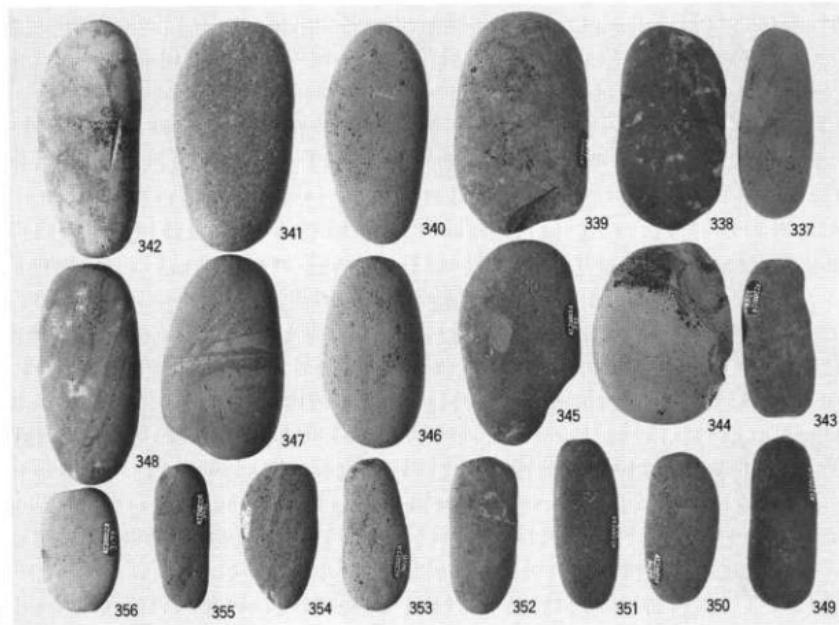


1

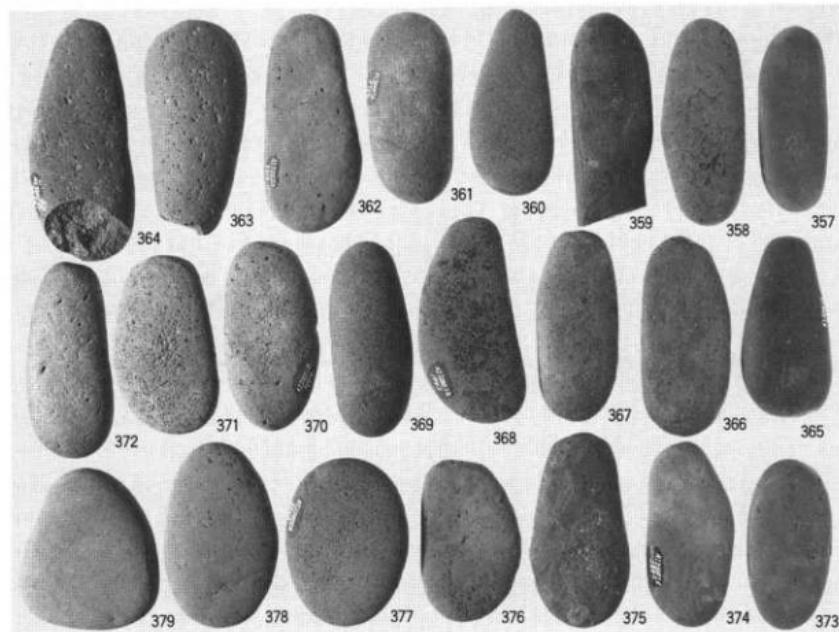


2





1



2

## 報告書抄録

ふりがな 書名	いわい・おおぬまいせき 岩井・大沼遺跡
調書名	県営大沼地区水環境整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告
シリーズ名	市浦村埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第12集
編著者名	榎原 滋高、長利 豪美
編集機関	青森県市浦村教育委員会
所在地	〒037-0401 青森県北津軽郡市浦村大字相内字岩井81-384
発行機関	青森県市浦村教育委員会
発行年月日	西暦 2001年 3月31日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市浦村	遺跡					
岩井・大沼 遺跡	青森県北津 軽郡市浦村 大字相内字 岩井81-1 地内	02385	38011	41度03分 32秒	140度21 分10秒	試掘調査： 19990513～ 19990623 本調査： 20000703～ 20000728	試掘調査： 200m <sup>2</sup> 本調査： 900m <sup>2</sup>	県営大沼地 区水環境整 備事業に伴 う発掘調査

所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩井・大沼 遺跡	散布地	縄文晚期	土器捨て場	縄文土器後期 縄文土器晩期末葉（大洞A'式）， 石器（石鎌・尖頭器・石匙・スクレ イバー・磨製石斧・敲石・磨石・石 錐） 土製品（土版・スプーン形製品）	

### 市浦村埋蔵文化財調査報告書 第12集

### 岩井・大沼遺跡

～県営大沼地区水環境整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告～

発行年月日 2001年3月31日

編集・発行 青森県市浦村教育委員会

〒037-0401

青森県北津軽郡市浦村大字相内字岩井81-384

Tel: 0173-62-3751

十三瀬遺跡発掘調査事務所

Tel: 0173-62-3176

印 刷 株式会社青森オフセット印刷

〒030-0802

青森市本町2丁目11番16号 Tel: 017-775-1431